

船橋市立リハビリテーション病院  
令和5年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

## 目次

I	管理の実施状況	1
1	病院基盤の整備	1
2	診療機能	4
3	地域連携	8
4	診療の成果	11
II	利用状況	14
1	入退院患者	14
2	外来患者	18
3	訪問リハビリテーション患者	21
4	通所リハビリテーション患者	24
5	相談件数	26
III	収支状況	27
IV	中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	29
1	患者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項	29
2	患者の効率化に関する事項	43
3	財務内容の改善に関する事項	45
4	その他管理に関する重要事項	47
V	剰余金についての実施状況報告	49

### (別添)

別添1	組織図	別添6-1	訪問満足度調査結果
別添2	院内外の研修・学会	別添6-2	通所満足度調査結果
別添3	紹介元医療機関リスト	別添7	退院後のフォローアップ率
別添4	入院満足度調査結果	別添8	剰余金についての実施状況報告
別添5	外来満足度調査結果		

## I 管理の実施状況

### 1 病院基盤の整備

#### (1) 組織編成

リハビリテーション病院の組織編成は、各部署の目的及び責任の明確化を図り迅速な意思決定が可能となるものとし、院長の下に診療部、診療支援部、回復期支援部、生活期支援部、栄養部、サポート部の6部門を設け運営した。医療安全、感染対策、個人情報保護等病院を運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各部と主な委員会の役割は次のとおり。（別添1 組織図）

#### A 診療部

診療部は、医師が所属し、入院診療及び外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療を担当した。尚、医師は、病棟のチームに配置となっている。

#### B 診療支援部

診療支援部は薬剤師、臨床放射線技師、臨床検査技師が所属している。少数部署であり、病棟配置とはならないが、入院患者及び外来患者に対し、必要な投薬、検査等を行った。

#### C 回復期支援部

回復期支援部は、病棟業務に携わる看護師・介護福祉士（CW）・理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）・社会福祉士（SW）・管理栄養士等が所属し、入院患者の看護・介護・リハビリテーションサービス・栄養管理を担当した。病棟の各チームはマネジャー（フロアマネジャー・クオリティマネジャー）が統括した。

#### D 生活期支援部

生活期支援部は、外来・通所・訪問リハビリテーション業務に携わる看護師・介護福祉士（CW）・理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）・社会福祉士（SW）等が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーション患者の看護・介護・リハビリテーションサービスを担当した。各チームはマネジャー（フロアマネジャー・クオリティマネジャー）が統括した。

## E 栄養部

栄養部は、栄養士・調理師が所属し、入院患者の食事・栄養管理、職員食堂での職員への昼食提供を担当した。喫茶は、令和5年度も運営を休止した。

## F サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、病棟クラーク、総務・人事、施設管理、システム管理、リハビリスケジュール作成、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

## G 主な委員会の担当事項

### ① 医療安全委員会

医療安全委員会は、院内における医療事故やその他の事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。医療安全マニュアルを作成し、マニュアルに沿った業務遂行の徹底を図った。また、下部組織として医療安全の実践的な活動を行うSMT（セーフティマネジメントチーム）を設置した。SMTは、転倒転落、薬剤、食事誤嚥、その他、センサーコール系の5グループで構成した。

### ② 感染対策委員会

感染対策委員会は、院内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。また新型コロナウイルスについて対策を徹底した。感染対策マニュアルを作成し、マニュアルに沿った業務遂行の徹底を図った。

### ③ 個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、開示申請があった場合に申請者の適否・開示情報の範囲・開示の可否について審査した。

### ④ サービス向上委員会

患者のアメニティの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、1階フロアーに総合相談窓口を設置し、患者等の苦情に対応した。院内複数箇所に御意見箱を設置し、いただいた

御意見で改善できるところは速やかに改善し満足度の向上を図った。また御意見への回答を院内に掲示した。患者満足度調査についても実施した。また、院内の情報公開として、病院運営の透明性を確保するため個人情報以外は原則公開するものとし、入院・外来の患者・家族及び来院者に有用な情報を院内情報誌及びホームページにて提供した。

#### ⑤その他委員会以外の会議・プロジェクト

医療センターをはじめとする地域急性期病院との連携等の重要な案件や、新規の医療関連プロジェクトについては、適宜、会議やプロジェクトで対応を行った。

### (2) 情報システムの構築

当院の診療はチームで行なうが、そのチーム内の基盤となるのが患者情報である。このため、患者状況・治療目標等の患者情報の共有化を支援する電子カルテシステムを導入している。この電子カルテシステムは、電子カルテを中核に医事会計、薬剤、給食管理、画像診断、勤怠給与管理システムと連動する。また、この電子カルテは、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与する。

### (3) 職員の資質向上

効果的なりハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、本部人材育成局が教育・研修を担当し、職員には当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部署の業務体制についても研修を行った。さらに職員には、社会人・大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇マニュアルを作成した（別添2 院内外の研修・学会）

## 2 診療機能

### (1) 職員配置（全体と病棟）

令和5年度に配置した職員は次のとおり。

※表の数字は端数処理を行っているため、内訳と計が一致しない場合がある。

令和5年4月1日時点

区分	職 種	人 数	全国平均 180床あたり	うち病棟（1チーム）	昨年度 人数
	院 長	1	-		1
診 療 部	医 師	10.3	3.6	9.6（1.6）	10
診 療 支 援 部	薬 剤 師	4.3	6.3	3（0.5）	6.1
	放射線技師	2	-		2
	検査技師	3	-		3
回 復 期 支 援 部	マネジャー	15	-	13（2.2）	14
	看護師	84	-	84（14.0）	80.6
	介護福祉士（CW）	45.8	-	45.8（7.6）	47
	理学療法士（PT）	74.6	31.8	74.6（12.4）	68.5
	作業療法士（OT）	51	17.6	51（8.5）	46.8
	言語聴覚士（ST）	22.3	7.1	22.3（3.7）	24.5
	社会福祉士（SW）	11	5.7	11（1.8）	11
	管理栄養士（CN）	5.7	3.9	5.7（1.0）	5.5
生 活 期 支 援 部	マネジャー	2	-		2.5
	看護師	2.8	-		2.7
	介護福祉士（CW）	1.6	-		1.9
	理学療法士（PT）	18	-		16
	作業療法士（OT）	11.8	-		13.8
	言語聴覚士（ST）	6.8	-		6.7
	社会福祉士（SW）	1	-		1
栄 養 部	栄養士	10.8	-		12.4
	調理師	8	-		7
	調理補助他	13.3	-		13.1

地域連携支援室	2.1	-		2
サポート部(事務)	30.6	-	6 (1.0)	30.4
その他	0.8	-		0.8
計	439.6	-	326 (54.3)	430.3

※ 病棟欄の ( ) 内数字は1チーム当たりの職員数

## (2) 提供した診療サービス

入院診療は、令和5年度も20床休床して180床で運営を行ったため、病院全体で全3病棟（1病棟あたり60床）、6チーム（1チームあたり30床）を稼働させて回復期リハビリテーションを提供した。全病棟で回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準を算定した。また、外来リハビリテーション、通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションについても、それぞれサービスを提供した。

## (3) 診療サービスを提供するに当たり実施した重要事項

質の高いサービスを提供するための重要事項として、次の事項を実施した。

### ア チーム医療

入院診療は、医師、看護師、CW、PT、OT、ST、SW、CN等の病棟専従配置による強力なチームアプローチとし、マネジャーが中心となり、朝夕のミーティング、入院時合同カンファレンス、定期カンファレンス等を開催し、患者の容態、治療目標等の情報共有化を図り、効果的なリハビリテーションを提供した。また、外来・通所・訪問リハビリテーションもチーム医療で行った。

### イ 機能訓練の時間と頻度

機能回復の度合いは訓練時間と比例するため、入院診療では患者1人に対して最大PT、OT、STの合計で9単位（3時間）の個別リハビリテーションサービスの提供を目指した。そして、リハビリテーションは可能な限り毎日継続することが重要であるので、土、日、祝日も休むことなく毎日均一なリハビリテーションサービスを提供した。

令和5年度は、クラスター発生によるリハビリテーション提供の中止や、新型コロナウイルス陽性または濃厚接触者となったセラピストの欠勤、年度途中退職等による欠員により年間通しての提供単位数は7.81単位（2時間36分）であった。

また、外来・訪問・通所リハビリテーションは、土曜と祝日も行った。

#### ウ 看護・ケアサービス体制

病棟におけるケアの最低基準として、以下の8項目を実施した。

- ①可能な限り経口摂取していただく。
- ②洗面は朝夕洗面所で、口腔ケアは毎食後実施する。
- ③排泄は必ずトイレで、オムツは極力使用しない。
- ④入浴は家庭にある一般的な浴槽を使用し、週に3日浴槽に入っていたいただく。
- ⑤朝晩着替え、日中は普段着で過ごしていただく。
- ⑥一人ひとりの体型や姿勢にあった車いすを用意する。
- ⑦転倒や誤嚥等の事故防止対策を徹底し、原則として抑制はしない。
- ⑧可能な限り日中はベッドから離れて過ごしていただく。

また、ADL（日常生活動作）の向上において重要な時間帯7:00～8:30（モーニングケア：起き上がり、トイレでの排泄、洗面、更衣、食事摂取、口腔ケア）、18:00～21:30（イブニングケア：モーニングケアに入浴が加わる）には、看護師、CWにPT、OTが加わる人員配置体制とした。

食事は、患者にとって院内生活で唯一の楽しみであり、リハビリテーション訓練に耐え得る体力を養うためにも重要である。このため、各病棟の厨房にて出来立ての食事の提供、陶磁器の食器の使用など、食事を楽しんでいただきながら栄養改善を図った。嚥下障害患者には、患者の状況に応じきめ細かく嚥下食を提供した。選択メニューは令和5年度10月から夕食提供を再開し、3食とも選択することが可能な状況に戻すことができた。新型コロナウイルス感染症発生予防の観点から、家族と一緒に楽しめる食事については令和5年度も提供できなかった。

#### エ リスクマネジメント

##### ①医療安全管理

医療安全は、医療安全委員会が担当した。一般の病院では投薬ミスや輸液の確認ミス、不適合輸血、針刺し事故等の頻度が高いが、リハビリテーション専門病院では転倒、転落、誤嚥が高頻度となっている。これらの事故防止を目的として、同委員会がヒヤ

リハットも含めて全例報告を義務づけ、その報告事例を分析し、防止対策を立て職員に周知し事故防止を図った。

## ②院内感染

院内感染は、感染対策委員会が対策を立て職員に周知し予防するとともにMRSA、セラチア菌、緑膿菌などの頻度の高い感染症を有する患者の受け入れ体制を常に万全のものとした。

また、ICT（感染対策チーム）が中心となって、新型コロナウイルスへの予防・対策を検討・実行した。

## オ 患者とその家族への支援

患者が精神的に安定し退院後の生活に意欲を持つことができれば、リハビリテーションに対するモチベーションが高くなり、リハビリテーションの効果もそれに比例して高くなる。このため、患者とその家族への精神的、社会的、経済的な支援が重要となり、チーム全員で支援を行った。新型コロナウイルス感染症発生予防の観点から、患者家族教室は令和5年度も開催できなかった。（令和6年度は開催。）

## カ 退院患者のフォロー

退院患者については、退院後の状況を電話で確認するフォローアップ電話を実施し、困っていることが無いかの確認や、必要に応じたアドバイスなどを実施した。

### 3 地域連携

#### (1) 地域連携の必要性

リハビリテーションは、患者の容態により疾患が発症した急性期から回復期、生活期と継続して提供されなければならない。そのため、回復期を担う当院では、急性期と生活期を繋ぐ重要な役割を担わなければならない。

回復期リハビリテーションの効果は、如何に早くリハビリテーションを提供したかにより機能回復の度合いが異なることから、できるだけ早期に受け入れること。そして、当院の回復期リハビリテーションにより回復した身体機能を自宅に帰って維持していくためには、退院時に自宅でのリハビリテーションが可能となるよう生活期リハビリテーション施設等へ引き継ぐことが重要となる。

このように、入院患者の受け入れ元となる急性期病院と退院患者の受け入れ先となる生活期リハビリテーション施設等との連携が不可欠となる。地域医療機関との連携は、地域連携支援室が担当し、次のとおり急性期病院及び生活期リハビリテーション関係者との連携を図った。

#### (2) 急性期病院との連携

紹介元となる急性期病院に対し訪問での面会やリモートでの会議を行い、積極的に情報収集・情報共有を行うことで当院への患者紹介がよりスムーズになることを目指した。特に船橋市立医療センターとは、年4回の病院間連携会議（医療センターから副院長、脳神経外科部長、脳神経外科および整形外科看護師長、MSW・事務が、リハビリ病院から病院長、回復期支援部長（看護師・言語聴覚士）、フロアマネジャー（看護師・理学療法士等）、地域連携支援室（看護師・MSW）、事務がそれぞれ参加。）と、毎月のソーシャルワーカー連携会議を実施した。また医療センターからの紹介患者には、当院で行う入院相談を無くす方法を実施し、より早期の患者受入に努めることで、医療センターの後方ベッドとしての役割を果たした。

#### (3) 生活期リハビリテーション施設等との連携

患者退院時に行われる当院スタッフ、患者とその家族が参加するカンファレンスにケアマネジャー等の生活期リハビリテーション施設等の参加を願った。カンファレンスでは、当院から患者の入院時、退院時の容態等の情報を提供し、共同してケアプランを作成するなど継続し

て生活期リハビリテーションを受けられるよう生活期リハビリテーション施設等との連携を図った。

#### (4) 地域リハビリテーションの推進

リハビリテーションは急性期から回復期、生活期まで、滞りなく効率的にリハビリが提供されることが重要であり、そのためには、医療や保健福祉にたずさわる機関等が連携し、回復した機能を維持するための地域リハビリテーションの推進が重要である。地域リハビリテーションの推進事業として行なっているものは以下の通りである。

##### ① 退院後のフォローアップ電話(再掲)

##### ② 退院前の家庭訪問

退院前のケアとして、年間297件の家庭訪問を実施した。患者のご家庭に、セラピストや看護師が、ケアマネジャーや住宅改修業者と一緒に訪問することで、在宅復帰後の生活環境の改善や、生活期のリハビリのご案内も併せて行なった。

##### ③ 船橋市回復期病院連携の会

市内回復期病院の連携の会が平成27年度に発足し、その会の事務局を当院で担っている。講義やグループワークなど研修活動の取りまとめを行い、市内回復期病院間の連携を深め、各病院の質の向上を目指している。

##### ④ 地域会議への参加活動

地域や患者の為に行われるサービス担当者会議、地域ケア会議に当院のスタッフが参加している。これらは、当院の職員だけではなく、他施設の方々と集まり、今後の患者の事や地域でのリハビリの事を話し合っている。そこに参加するのはセラピストだけではなく、医師や看護師も集まる仕組みとなっており、リハビリに関する助言も行なっている。これらが、地域包括ケアシステムの構築プロセスになるのではと考える。

##### ⑤ 地域包括ケア推進会議としての活動

地域包括ケアの推進に向け、当院スタッフが一体感を持って地

域リハ活動に取り組むことができること、また、地域で働く多職種のことを理解し、地域の人に対してリハビリテーション視点での発信ができるようになることを目指し、活動を行った。

#### ⑥ 市民公開講座等の開催

令和5年度は患者家族教室は実施できなかった。市民公開講座は当院大会議室にて開催した。

#### ⑦ 地域交流会の開催

患者と退院患者及びその家族に向けて開催される参加者無料の地域交流会は、新型コロナウイルス感染症発生予防の観点から令和5年度も開催できなかった。

#### ⑧ 市内中学校の職場体験

毎年、市内複数の中学校より職場体験を受け入れているが、新型コロナウイルス感染症発生予防の観点から令和5年度も実施できなかった。（令和6年度は実施予定。）

#### 4 診療の成果

※表の数字は端数処理を行っているため、内訳と計が一致しない場合がある。

##### (1) 疾患別平均リハビリテーション効果（FIM ※）

※退院患者830名のうち、胃瘻造設等で一時退院後再入院した同発症日・同病名の患者52名及び回復期対象外患者2名を除いた776名を集計

単位：点

区 分	人数(人)	入院時	退院時	効果	R4 年度 効果
脳血管疾患系	496	64.7	90.7	26.0	28.3
整形外科系	222	74.7	96.0	21.3	22.2
廃用症候群	52	58.5	81.4	22.9	21.6
その他	6	85.7	109.5	23.8	21.5
計（疾患全体）	776	67.3	91.8	24.5	25.5

※FIM（機能的自立度評価法）とは、18項目（運動13項目・認知5項目）を7段階（126点満点）で評価する指標。

食事、整容、更衣等、排泄コントロール、ベッドや車いすへの移乗・移動等の運動項目を数値化したものと、コミュニケーション等の認知項目を数値化したものに分けることができる。

（7点：完全自立、6点：修正自立、5点：監視、4点：最小介助、3点：中等度介助、2点：最大介助、1点：全介助）

全国平均

単位：点

区 分	入院時	退院時	効果
脳血管疾患系	58.8	83.3	24.5
整形外科系	70.5	96.8	26.3
廃用症候群	55.1	75.1	20.0
その他	85.8	107.2	21.4
計	64.5	89.4	24.9

※注 全国平均は令和5年度一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会の調査結果（令和6年3月発行）である。以下も同じ。

(2) 入院患者の退院先

ア 全体

区 分	人数(人)		割合		全国平均
	R5	R4	R5	R4	
自宅(A)	576	578	74.2%	74.5%	64.4%
有料老人ホーム(A)	30	31	3.9%	4.0%	7.8%
グループホーム(A)	7	1	0.9%	0.1%	
特別養護老人ホーム(A)	12	22	1.5%	2.8%	3.5%
介護医療院(A)	3	2	0.4%	0.3%	1.2%
その他施設(A)	0	2	0.0%	0.3%	1.3%
介護老人保健施設(B)	75	63	9.7%	8.1%	6.4%
転院(療養病床等)(B)	14	12	1.8%	1.5%	7.4%
転院(一般病床)	58	63	7.5%	8.1%	7.8%
死亡退院	1	2	0.1%	0.3%	
計	776	776	100.0%	100.0%	100.0%

※転院(療養病床等)には長期療養病院・精神病床・地域包括ケア病床・他院の回復期リハ病棟を含む

※転院(一般病床)には急変による急性期病院への転院を含む

イ 疾患別在宅復帰率

区 分	人数(人)		復帰率		全国平均
	R5	R4	R5	R4	
脳血管疾患系	397	359	85.7%	87.3%	74.3%
整形外科系	190	207	93.1%	94.1%	84.2%
廃用症候群	35	51	79.5%	87.9%	68.6%
その他	6	19	100.0%	86.4%	-
計	628	636	87.6%	89.5%	78.1%

※在宅復帰率は上記「(2) 入院患者の退院先」における「(A)の合計/(A)+(B)の合計」で算出。

(3) 発症から入院するまでの平均日数

区 分	人数(人)		日数(日)		全国平均 (日)
	R5	R4	R5	R4	
全体	776	776	38.1	36.2	30.3
脳血管疾患系	496	435	41.0	36.9	38.4
整形外科系	222	250	33.8	33.7	23.7
廃用症候群	52	66	28.8	34.7	24.7
その他	6	25	36.7	51.8	32.0

(4) 疾患発症から退院するまでの平均日数

区 分	人数(人)		日数(日)		全国平均 (日)
	R5	R4	R5	R4	
全体	776	776	113.3	111.8	96.0
脳血管疾患系	496	435	124.2	123.0	120.7
整形外科系	222	250	93.5	92.4	77.9
廃用症候群	52	66	97.5	105.0	78.3
その他	6	25	85.8	128.2	70.0

## II 利用状況

※表の数字は端数処理を行っているため、内訳と計が一致しない場合がある。

### 1 入退院患者

#### (1) 入退院患者数（実数）

単位：人

区 分	入院患者数		退院患者数	
	R5	R4	R5	R4
計	827	839	830	838

※回復期対象外患者2名を含む。また、同発症日・同病名の再入院患者は1人としてカウント。

#### (2) 月別入退院患者内訳

単位：人

区分	入院患者数		延べ入院患者数		退院患者数	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
4月	76	76	5,448	5,359	78	83
5月	82	81	5,602	5,570	84	75
6月	65	83	5,331	5,471	64	83
7月	85	77	5,639	5,575	83	78
8月	68	72	5,583	5,442	71	72
9月	71	72	5,382	5,228	69	80
10月	80	81	5,584	5,529	84	71
11月	76	72	5,434	5,442	71	75
12月	72	63	5,591	5,533	71	64
1月	73	69	5,612	5,489	74	67
2月	72	67	5,233	5,046	73	68
3月	63	87	5,582	5,603	63	83
合計	883	900	66,021	65,287	885	899
1日平均患者	2.4	2.5	180.4	178.9	2.4	2.5

※回復期対象外での入院退院数、胃瘻造設等で一時退院後再入院した同発症日・同病名の患者数も入院・退院毎にカウントされています。

## (3) 年齢別・男女別入院患者内訳

※回復期対象外患者2名を除く退院患者828名を集計

単位：人

年 齢	男性		女性		合計		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
20才未満	7	1	0	1	7	2	0.8%	0.2%
20～29才	4	6	0	2	4	8	0.5%	1.0%
30～39才	11	7	2	3	13	10	1.6%	1.2%
40～49才	28	26	14	11	42	37	5.1%	4.4%
50～59才	59	54	26	27	85	81	10.3%	9.7%
60～69才	54	53	27	37	81	90	9.8%	10.8%
70～79才	105	95	114	121	219	216	26.4%	25.9%
80～89才	117	142	193	175	310	317	37.4%	38.0%
90才以上	29	20	38	54	67	74	8.1%	8.9%
合 計	414	404	414	431	828	835	100.0%	100.0%
平 均 年 齢	69.9	71.2	78.1	77.7	74.0	74.6		

## (4) 疾患別入院患者内訳

単位：人

疾 患 名	入院患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
脳梗塞	234	222	28.3%	26.6%
脳出血	123	124	14.9%	14.9%
くも膜下出血	40	36	4.8%	4.3%
頭部外傷	49	51	5.9%	6.1%
脊髄損傷	35	25	4.2%	3.0%
神経筋疾患	5	10	0.6%	1.2%
脳腫瘍	9	5	1.1%	0.6%
脊椎・下肢等の骨折	200	228	24.2%	27.3%
廃用症候群	53	70	6.4%	8.4%
その他	80	64	9.7%	7.7%
合 計	828	835	100.0%	100.0%

(5) 疾患別平均入院日数

※胃瘻造設等で一時退院後再入院した同発症日・同病名の患者52名及び回復期対象外患者2名を除いた退院患者776名を集計

単位：日

疾患名	平均入院日数	
	R5	R4
脳梗塞	80.3	81.8
脳出血	97.2	102.6
くも膜下出血	84.8	88.5
頭部外傷	67.9	74.4
脊髄損傷	98.1	97.0
神経筋疾患	147.8	98.4
脳腫瘍	70.1	48.0
脊椎・下肢等の骨折	62.2	60.0
廃用症候群	69.8	71.3
その他	61.6	65.2
全体	76.2	76.6

(6) 地域別入院患者数

※回復期対象外患者2名を除く退院患者828名を集計

単位：人

地 域	入院患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
船橋市	509	526	61.5%	63.0%
鎌ヶ谷市	83	69	10.0%	8.3%
市川市	82	81	9.9%	9.7%
習志野市	27	22	3.3%	2.6%
千葉市	18	22	2.2%	2.6%
八千代市	14	15	1.7%	1.8%
浦安市	14	15	1.7%	1.8%
松戸市	13	13	1.6%	1.6%
白井市	6	5	0.7%	0.6%
柏市	4	1	0.5%	0.1%
県内その他	35	34	4.2%	4.1%
県外	23	32	2.8%	3.8%
合 計	828	835	100.0%	100.0%

(7) 病床平均稼働率及び4床室・個室の利用者数

ア 全病床平均稼働率 100.2% (R4年度 99.4%)

(病床稼働日数：366日 病床数：180床)

イ 4床室・3床室・2床室・個室別の利用者数及び平均稼働率

単位：人

区 分	病床数		利用者数		稼働率%	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
4床室	144	144	52,963	52,507	100.5%	99.9%
3床室	12	12	4,400	4,373	100.2%	99.8%
2床室	0	0	0	0	-	-
個室	22	22	8,021	7,805	99.6%	97.2%
特別室	2	2	637	602	87.0%	82.5%
病 院 全 体	180	180	66,021	65,287	100.2%	99.4%

平均稼働率 = (延べ入院患者数) ÷ (延べ病床稼働数) × 100

## 2 外来患者

### (1) 外来患者数

単位：人

区 分	実患者数		延べ患者数	
	R5	R4	R5	R4
計	668	605	23,557	23,767

### (2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数 309日（本来は310日だが、院内レジオネラ清浄化作業で  
10月18日の営業を中止したため。）

単位：人

区 分	初診		再診		計	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
4月	16	26	1,961	1,896	1,977	1,922
5月	21	34	2,025	1,896	2,046	1,930
6月	34	29	1,999	1,906	2,033	1,935
7月	29	82	1,978	1,811	2,007	1,893
8月	29	76	2,028	1,917	2,057	1,993
9月	21	109	2,008	1,924	2,029	2,033
10月	24	23	1,868	2,056	1,892	2,079
11月	18	26	1,971	2,057	1,989	2,083
12月	25	22	1,916	1,975	1,941	1,997
1月	26	29	1,714	1,808	1,740	1,837
2月	29	20	1,833	1,855	1,862	1,875
3月	28	31	1,956	2,159	1,984	2,190
合 計	300	507	23,257	23,260	23,557	23,767
1日平均患者	1.0	1.6	75.3	75.0	76.2	76.7

※令和4年度7月～9月の初診が多いのは、病棟でのクラスター発生に伴い  
該当病棟全職員のPCR検査を実施しこれが含まれるため。

## (3) 年齢別・男女別外来患者内訳

単位：人

年 齢	男性		女性		合計		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
20才未満	9	11	8	9	17	20	2.5%	3.3%
20～29才	18	16	14	16	32	32	4.8%	5.3%
30～39才	25	19	12	12	37	31	5.5%	5.1%
40～49才	53	52	35	32	88	84	13.2%	13.9%
50～59才	123	115	58	51	181	166	27.1%	27.4%
60～69才	110	78	48	46	158	124	23.7%	20.5%
70～79才	69	64	51	44	120	108	18.0%	17.9%
80～89才	17	23	16	16	33	39	4.9%	6.4%
90才以上	1	0	1	1	2	1	0.3%	0.2%
合 計	425	378	243	227	668	605	100.0%	100.0%
平均年齢	57.1	56.9	57.2	56.5	57.1	56.8		

## (4) 疾患別外来患者内訳

単位：人

疾 患 名	外来患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
脳梗塞	196	169	29.3%	27.9%
脳出血	141	132	21.1%	21.8%
くも膜下出血	35	25	5.2%	4.1%
頭部外傷	45	34	6.7%	5.6%
脊髄損傷	25	21	3.7%	3.5%
神経筋疾患	91	91	13.6%	15.1%
脳腫瘍	8	9	1.2%	1.5%
骨関節疾患	84	77	12.6%	12.7%
廃用症候群	5	8	0.7%	1.3%
その他	38	39	5.7%	6.5%
合 計	668	605	100.0%	100.0%

## (5) 地域別外来患者内訳

単位：人

地 域	外来患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
船橋市	420	395	62.9%	65.3%
鎌ヶ谷市	57	46	8.5%	7.6%
市川市	55	47	8.2%	7.8%
習志野市	22	20	3.3%	3.3%
八千代市	17	12	2.5%	2.0%
松戸市	16	13	2.4%	2.1%
千葉市	14	11	2.1%	1.8%
白井市	10	10	1.5%	1.7%
柏市	9	9	1.3%	1.5%
浦安市	8	7	1.2%	1.2%
県内その他	23	22	3.4%	3.6%
県外	17	13	2.5%	2.1%
合 計	668	605	100.0%	100.0%

### 3 訪問リハビリテーション患者

#### (1) 訪問リハビリテーション患者数

単位：人

区分	実患者数		延べ患者数	
	R5	R4	R5	R4
計	500	526	28,170	28,477

#### (2) 月別訪問リハビリテーション患者（延べ人数）内訳

診療日数 309日（本来は310日だが、積雪で2月6日の営業を中止したため。）

単位：人

区 分	初回		2回目以降		計	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
4月	8	15	2,309	2,404	2,317	2,419
5月	16	15	2,473	2,348	2,489	2,363
6月	11	15	2,352	2,427	2,363	2,442
7月	18	21	2,441	2,386	2,459	2,407
8月	8	9	2,458	2,376	2,466	2,385
9月	10	7	2,325	2,425	2,335	2,432
10月	9	8	2,439	2,416	2,448	2,424
11月	9	15	2,355	2,401	2,364	2,416
12月	7	13	2,350	2,336	2,357	2,349
1月	7	13	2,134	2,135	2,141	2,148
2月	10	7	2,099	2,217	2,109	2,224
3月	12	13	2,312	2,455	2,324	2,468
合計	125	151	28,045	28,326	28,170	28,477
1日平均患者	0.4	0.5	90.8	91.4	91.2	91.9

## (3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション患者内訳

単位：人

年 齢	男性		女性		合計		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
20才未満	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
20～29才	1	1	0	0	1	1	0.2%	0.2%
30～39才	7	7	2	2	9	9	1.8%	1.7%
40～49才	7	8	5	5	12	13	2.4%	2.5%
50～59才	11	18	14	17	25	35	5.0%	6.7%
60～69才	30	27	27	26	57	53	11.4%	10.1%
70～79才	66	58	65	79	131	137	26.2%	26.0%
80～89才	80	92	109	120	189	212	37.8%	40.3%
90才以上	18	19	58	47	76	66	15.2%	12.5%
合 計	220	230	280	296	500	526	100.0%	100.0%
平均年齢	74.9	74.8	79.8	79.2	77.7	77.3		

## (4) 疾患別訪問リハビリテーション患者内訳

単位：人

疾 患 名	患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
脳梗塞	115	124	23.0%	23.6%
脳出血	84	85	16.8%	16.2%
くも膜下出血	17	18	3.4%	3.4%
頭部外傷	13	11	2.6%	2.1%
脊髄損傷	20	24	4.0%	4.6%
神経筋疾患	58	62	11.6%	11.8%
脳腫瘍	4	3	0.8%	0.6%
骨関節疾患	139	140	27.8%	26.6%
廃用症候群	22	23	4.4%	4.4%
その他	28	36	5.6%	6.8%
合 計	500	526	100.0%	100.0%

(5) 地域別訪問リハビリテーション患者内訳

単位：人

地 域	患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
船橋市	485	510	97.0%	97.0%
鎌ヶ谷市	15	15	3.0%	2.8%
市川市	0	1	0.0%	0.2%
合 計	500	526	100.0%	100.0%

#### 4 通所リハビリテーション患者

##### (1) 通所リハビリテーション患者数

単位：人

区 分	実患者数		延べ患者数	
	R5	R4	R5	R4
計	196	176	6,903	6,697

##### (2) 月別通所リハビリテーション患者（延べ人数）内訳

診療日数 309日（本来は310日だが、院内レジオネラ清浄化作業で  
10月18日の営業を中止したため。）

単位：人

区 分	初回		2回目以降		計	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
4月	2	5	519	542	521	547
5月	4	4	554	554	558	558
6月	8	2	570	565	578	567
7月	9	7	577	554	586	561
8月	7	5	600	552	607	557
9月	5	3	579	578	584	581
10月	3	4	576	568	579	572
11月	3	6	596	574	599	580
12月	5	4	601	553	606	557
1月	4	0	538	506	542	506
2月	4	3	538	528	542	531
3月	7	2	594	578	601	580
合 計	61	45	6,842	6,652	6,903	6,697
1日平均患者	0.2	0.1	22.1	21.5	22.3	21.6

## (3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション患者内訳

単位：人

年 齢	男性		女性		合計		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
20才未満	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
20～29才	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
30～39才	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
40～49才	3	2	1	1	4	3	2.0%	1.7%
50～59才	8	6	9	6	17	12	8.7%	6.8%
60～69才	18	12	15	8	33	20	16.8%	11.4%
70～79才	37	35	34	41	71	76	36.2%	43.2%
80～89才	19	20	39	30	58	50	29.6%	28.4%
90才以上	4	7	9	8	13	15	6.6%	8.5%
合 計	89	82	107	94	196	176	100.0%	100.0%
平均年齢	72.4	74.9	76.4	77.1	74.6	76.0		

## (4) 疾患別通所リハビリテーション患者内訳

単位：人

疾 患 名	患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
脳梗塞	50	45	25.5%	25.6%
脳出血	45	39	23.0%	22.2%
くも膜下出血	3	3	1.5%	1.7%
頭部外傷	4	2	2.0%	1.1%
脊髄損傷	3	3	1.5%	1.7%
神経筋疾患	14	15	7.1%	8.5%
脳腫瘍	2	1	1.0%	0.6%
骨関節疾患	63	52	32.1%	29.5%
廃用症候群	2	4	1.0%	2.3%
その他	10	12	5.1%	6.8%
合 計	196	176	100.0%	100.0%

(5) 地域別通所リハビリテーション患者内訳

単位：人

地 域	患者数		構成割合%	
	R5	R4	R5	R4
船橋市	168	153	85.7%	86.9%
鎌ヶ谷市	9	10	4.6%	5.7%
市川市	7	7	3.6%	4.0%
白井市	5	3	2.6%	1.7%
柏市	2	1	1.0%	0.6%
浦安市	2	1	1.0%	0.6%
佐倉市	1	1	0.5%	0.6%
習志野市	1	0	0.5%	0.0%
千葉市	1	0	0.5%	0.0%
松戸市	0	0	0.0%	0.0%
八千代市	0	0	0.0%	0.0%
合 計	196	176	100.0%	100.0%

5 相談件数

	受診・受療 援助 (※1)	心理社会的 問題 (※2)	退院援助 (※3)	経済的援助 (※4)	社会復帰 援助 (※5)	その他	合計
北 2 病棟	130	1,184	4,674	78	9	27	6,102
南 2 病棟	146	2,292	3,652	25	0	15	6,130
北 3 病棟	74	1,260	3,572	45	5	83	5,039
南 3 病棟	169	1,644	3,731	87	14	87	5,732
北 4 病棟	67	2,462	3,801	69	4	283	6,686
南 4 病棟	37	1,287	3,179	9	1	206	4,719
外来	1,256	304	152	52	102	266	2,132
合計	1,879	10,433	22,761	365	135	967	36,540

※1：入院にまつわる問題の解決・調整援助。入院中の他科受診にまつわる問題の解決・調整援助など

※2：入院・外来通院中に生じる、諸々の心理社会的問題にまつわる解決・調整援助など

※3：退院にまつわる問題の解決・調整援助。社会資源の利用援助含む

※4：経済的問題の解決・調整援助。社会資源の利用援助含む

※5：復職・復学にまつわる問題の解決・調整援助。社会資源の利用援助含む

### Ⅲ 収支状況

#### 令和5年度 損益計算書（令和4年度対比）

※表の数字は端数処理を行っているため、内訳と計が一致しない場合がある。

（単位：千円）

区 分	R5年度		R4年度		対比		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	
医 業 収 益	入 院 診 療 収 益	2,938,125	84.9%	2,976,221	85.4%	-38,096	-0.5%
	室 料 差 額 収 益	89,808	2.6%	84,168	2.4%	5,640	0.2%
	外 来 診 療 収 益	186,619	5.4%	185,187	5.3%	1,432	0.1%
	訪 問 診 療 収 益	184,123	5.3%	180,612	5.2%	3,510	0.1%
	通 所 診 療 収 益	44,853	1.3%	40,652	1.2%	4,201	0.1%
	保 険 予 防 活 動 収 益	1,396	0.0%	2,062	0.1%	-666	0.0%
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	そ の 他 医 業 収 益	17,187	0.5%	17,948	0.5%	-761	0.0%
	計	3,462,110	100.0%	3,486,850	100.1%	-24,740	-0.1%
	保 険 等 査 定 減	-375	0.0%	-2,199	-0.1%	1,825	0.1%
計	3,461,735	100.0%	3,484,651	100.0%	-22,916	0.0%	
医 業 費 用	3,294,822	95.2%	3,302,954	94.8%	-8,132	0.4%	
本 部 配 賦 額	103,771	3.0%	102,066	2.9%	1,705	0.1%	
事 業 利 益	63,142	1.8%	79,631	2.3%	-16,489	-0.5%	
医 業 外 収 益	受 取 利 息 配 当 金	1	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
	有 価 証 券 売 却 益	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	患 者 外 給 食 収 益	14,267	0.4%	12,939	0.4%	1,328	0.0%
	補 助 金 ・ 負 担 金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	そ の 他 の 医 業 外 収 益	44,631	1.3%	65,192	1.9%	-20,561	-0.6%
計	58,899	1.7%	78,132	2.2%	-19,233	-0.5%	
医 業 外 費 用	支 払 利 息	3,262	0.1%	2,809	0.1%	452	0.0%
	有 価 証 券 売 却 損	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	患 者 外 給 食 材 料 費	15,386	0.4%	13,882	0.4%	1,505	0.0%
	繰 延 消 費 税 等 償 却	2,329	0.1%	1,986	0.1%	343	0.0%
	そ の 他 医 業 外 費 用	779	0.0%	382	0.0%	397	0.0%
計	21,756	0.6%	19,059	0.5%	2,697	0.1%	
経 常 利 益	100,285	2.9%	138,704	4.0%	-38,419	-1.1%	
特 別 利 益	固 定 資 産 売 却 益	0	0.0%	200	0.0%	-200	0.0%
	特 別 利 益	0	0.0%	200	0.0%	-200	0.0%
特 別 損 失	固 定 資 産 廃 棄 売 却 損	4	0.0%	340	0.0%	-336	0.0%
	特 別 損 失	4	0.0%	340	0.0%	-336	0.0%
税 引 前 当 期 純 利 益	100,281	2.9%	138,564	4.0%	-38,283	-1.1%	
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税 負 担	530	0.0%	530	0.0%	0	0.0%	
税 金 等 調 整 額	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
当 期 純 利 益	99,751	2.9%	138,034	4.0%	-38,283	-1.1%	

医業費用明細

(単位：千円)

区 分		R5年度		R4年度		対比		
		実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	
医業費用	給与費	給料	1,858,587	53.7%	1,878,947	53.9%	-20,360	-0.2%
		賞与	242,222	7.0%	244,529	7.0%	-2,308	0.0%
		賞与引当金繰入額	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		退職給付費用	17,502	0.5%	20,772	0.6%	-3,270	-0.1%
		法定福利費	311,365	9.0%	306,953	8.8%	4,412	0.2%
		計	2,429,676	70.2%	2,451,201	70.3%	-21,526	-0.2%
	材料費	医薬品費	57,354	1.7%	53,694	1.5%	3,660	0.1%
		診療材料費	29,751	0.9%	28,645	0.8%	1,107	0.0%
		医療消耗器具備品費	4,459	0.1%	1,803	0.1%	2,656	0.1%
		給食用材料費	77,513	2.2%	70,459	2.0%	7,054	0.2%
	計	169,077	4.9%	154,600	4.4%	14,477	0.4%	
	委託費	検査委託費	6,277	0.2%	7,855	0.2%	-1,579	0.0%
		寝具委託費	11,026	0.3%	11,114	0.3%	-88	0.0%
		清掃委託費	42,809	1.2%	46,952	1.3%	-4,144	-0.1%
		保守委託費	6,546	0.2%	6,475	0.2%	70	0.0%
		その他委託費	51,260	1.5%	43,791	1.3%	7,469	0.2%
	計	117,917	3.4%	116,188	3.3%	1,729	0.1%	
	設備関係費	減価償却費	62,518	1.8%	54,243	1.6%	8,274	0.2%
		機器賃借料	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		地代家賃	179,160	5.2%	179,160	5.1%	0	0.0%
		修繕費	10,529	0.3%	7,105	0.2%	3,424	0.1%
		固定資産税等	2,211	0.1%	2,359	0.1%	-148	0.0%
		機器保守費	44,808	1.3%	44,156	1.3%	651	0.0%
		機器設備保険料	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		車両関係費	3,381	0.1%	3,796	0.1%	-415	0.0%
	計	302,606	8.7%	290,820	8.3%	11,787	0.4%	
	研究研修費	研究費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		研修費	4,777	0.1%	2,957	0.1%	1,820	0.1%
	計	4,777	0.1%	2,957	0.1%	1,820	0.1%	
	経費	福利厚生費	3,495	0.1%	3,688	0.1%	-193	0.0%
		募集採用費	37,596	1.1%	35,393	1.0%	2,203	0.1%
		旅費交通費	1,345	0.0%	1,617	0.0%	-272	0.0%
職員被服費		18,995	0.5%	18,610	0.5%	386	0.0%	
通信費		5,552	0.2%	5,188	0.1%	364	0.0%	
広告宣伝費		1,620	0.0%	1,772	0.1%	-151	0.0%	
消耗品費		20,922	0.6%	19,983	0.6%	939	0.0%	
消耗器具備品費		3,785	0.1%	6,014	0.2%	-2,229	-0.1%	
図書費		1,884	0.1%	1,855	0.1%	29	0.0%	
会議費		78	0.0%	54	0.0%	24	0.0%	
水道光熱費		81,372	2.4%	101,374	2.9%	-20,001	-0.6%	
賃借料		20,477	0.6%	19,754	0.6%	723	0.0%	
保険料		3,902	0.1%	3,712	0.1%	190	0.0%	
交際費		288	0.0%	60	0.0%	228	0.0%	
諸会費		1,172	0.0%	1,157	0.0%	15	0.0%	
租税公課		106	0.0%	52	0.0%	53	0.0%	
貸倒損失		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
貸倒引当金繰入		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
寄付金		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
支払手数料		3,458	0.1%	2,590	0.1%	868	0.0%	
雑費	9,452	0.3%	9,156	0.3%	296	0.0%		
計	215,502	6.2%	232,029	6.7%	-16,527	-0.4%		
控除対象外消費税等	55,267	1.6%	55,159	1.6%	108	0.0%		
合計	3,294,822	95.2%	3,302,954	94.8%	-8,132	0.4%		

#### IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告

##### 1 患者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

###### 1) 診療成果等の医学的側面に関する事項

###### 目標1：在宅復帰率

R5年度目標：	疾患全体 86.0%	脳血管系 83.0%	整形外科系 90.5%	廃用症候群 83.0%	その他 -
R5年度実績：	疾患全体 87.6%	脳血管系 85.7%	整形外科系 93.1%	廃用症候群 79.5%	その他 -

###### 目標達成に対するR5年度の活動状況について

R4年度同様に下記の項目を実施した。

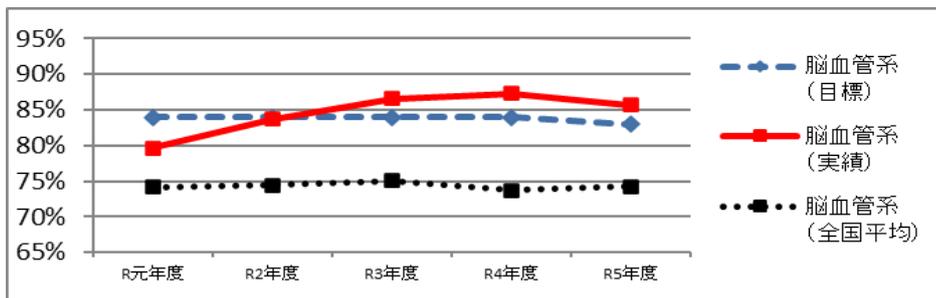
- ① 365日、1日2～3時間の濃厚なりハビリテーションサービスを提供した。
- ② 自宅復帰後の日常生活をイメージした下記の具体的ケアを行った。
  - 1) 食事は病棟食堂で可能な限り経口摂取する。
  - 2) 洗面は朝夕洗面所で、口腔ケアは毎食後行う。
  - 3) 排泄は極カトイレで行う。
  - 4) 入浴は特殊浴槽を使わず、通常の浴槽に入る。
  - 5) 朝晩着替え、日中は普段着で過ごす。
  - 6) 個人の体形や姿勢に合った車椅子を用意する。
  - 7) 原則として、抑制は行わない。
  - 8) 日中はベッドから離れて、自主訓練などで活動して頂く。
- ③ 上記の食事、洗面、口腔ケア、着替えなどを職員がサポートできる人員配置を行った。特に朝のモーニングケア、夜のイブニングケアに対しては、看護師、介護福祉士の早出・遅出に、PT・OTの早出・遅出を加え、1チームに6名のケアスタッフを配置した。
- ④ 入院中の患者の楽しみのひとつは食事である。濃厚なりハビリテーションサービスに耐える体力と精神力を養うために、食事については調理師が病棟厨房で調理したものを提供し、食器は陶磁器を使用した。また管理栄養士が適切な栄養コントロールを行う体制を採った。
- ⑤ 1チーム（30人）に対して2人体制でソーシャルワーカーを配置し円滑な退院援助を実施した。

###### R5年度の実績に基づく今後の改善点について

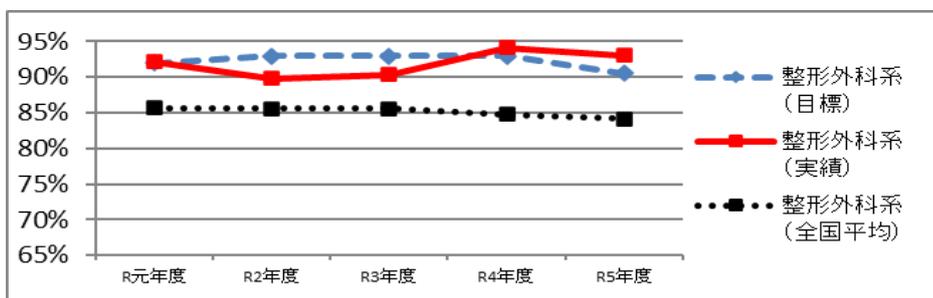
廃用症候群は目標を下回ったが、脳血管系・整形外科系では目標を上回り、疾患全体でも目標86.0%に対して実績87.6%と目標を上回った。R4年度の診療報酬改定で回復期リハ入院料1の入院時重症者割合が3割から4割に引き上げられており、引き続き、重症者を多く受け入れながら高い在宅復帰率も維持していく必要がある。なお、前年度の疾患全体在宅復帰率89.5%からはやや減少したが、これは退院先割合の変化（老健への退院がR4年度8.1%→R5年度9.7%に増加し、特養への退院がR4年度2.8%→R5年度1.5%へと減少）の影響を受けた結果と考える。R6年度も引き続き、上記に記載した活動・取り組みを継続していきたい。

目標1（参考） 経年グラフ

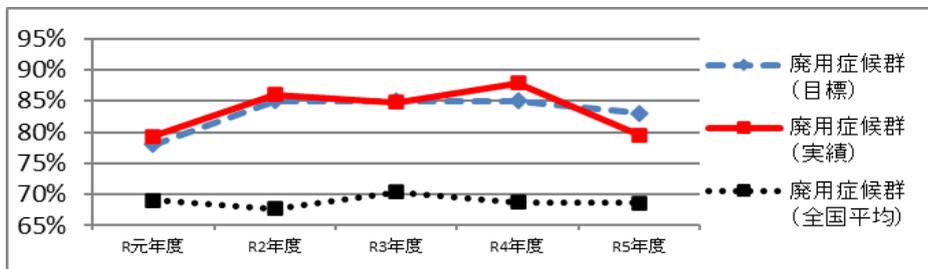
在宅復帰率 脳血管系



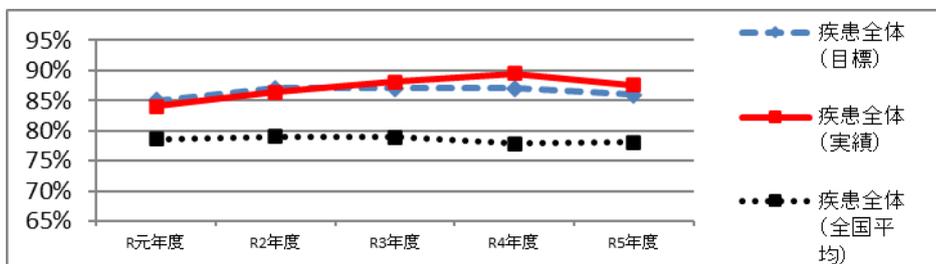
在宅復帰率 整形外科系



在宅復帰率 廃用症候群系



在宅復帰率 疾患全体



目標2：市立リハビリ病院へ入院してから退院するまでの日数

	疾患全体	脳血管系	整形外科系	廃用症候群	その他
R5年度目標：	73.5日	85.0日	59.0日	62.0日	-
R5年度実績：	75.2日	83.2日	59.6日	68.8日	-

目標達成に対するR5年度の活動状況について

R4年度同様に下記の項目を実施した。

① 適切なリハビリテーション計画の策定

入院時から、患者の心身機能、ADL、抱えている心理的・社会的問題などを把握し、それぞれの実情に応じた退院までの計画を策定することで、予後の見通しを明確にした。

② 質の高いリハビリテーションサービスの提供

入院中は、目標1「在宅復帰率」の達成のために掲げたリハビリテーションサービスを提供することで、ADLの向上を図った。また、入院初期からADL向上の予測を行い、FIM実績指数を管理し、予測と実績との差異分析を行い、スタッフの技術向上も図った。

③ 入院患者の状況把握

脳卒中再発や合併疾患を診断するためのMRI・CT装置、安全な経口摂取を目指して嚥下機能を評価する造影検査装置、リハビリテーション開始前後における骨状態を検査する骨密度測定装置など充実した検査装置を利用して、異常の早期発見と病状や身体機能の正確な評価を行うことにより、入院期間の短縮を念頭に診療を行った。

④ 退院後の調整

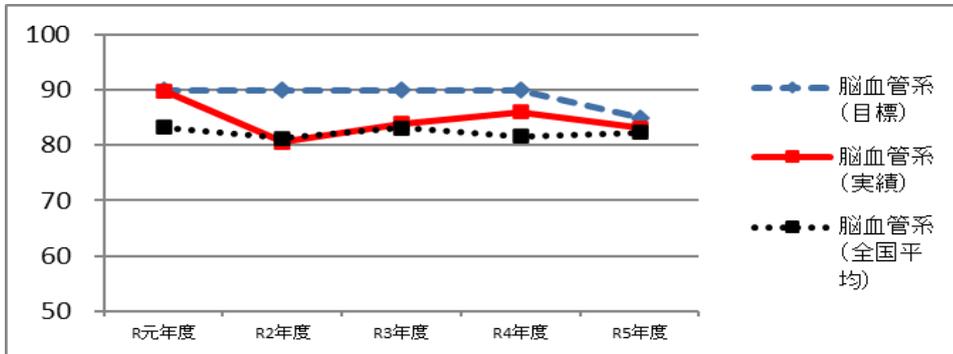
すでに作成されている市内の生活期施設（介護保険施設、居宅サービス事業所等）のリハビリテーション機能に関するデータベースをもとに、目標に対する支援を行い退院後の調整を早期に行った。

R5年度の実績に基づく今後の改善点について

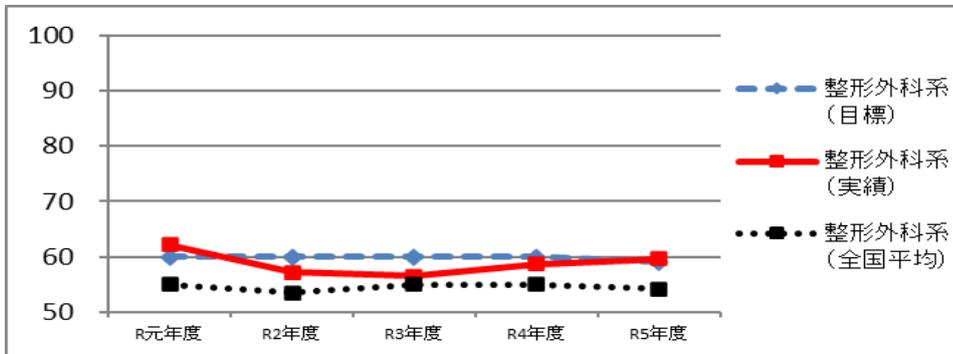
脳血管系は目標を上回ったが、整形外科系・廃用症候群では目標を下回り、疾患全体でも目標73.5日に対して実績75.2日と目標を下回った。FIM実績指数（退院までに改善したFIM運動項目総和／（入院日数／算定上限日数））は、短い入院期間でいかに効率よくADLを改善したかを表す指数であり、回復期リハ入院料1を維持するためには実績指数40以上を常に保つ必要がある。入院後早期に目標とするFIMを具体的にイメージし、面談で患者・家族と共有していく必要があるが、リハビリテーションへのモチベーションを上げるようなアプローチも重要である。R2年度以降、入院時から退院を見据えて設定した目標入院期間が1か月以上ずれないように、また標準的な退院計画を設定し退院前ケアカンファレンスなどが計画的に実施できるようにチームとして取り組み、入院期間を短縮できるよう努力している。その結果として疾患全体の入院日数はR4年度75.6日→R5年度75.2日と減少できた。R4年度から衣類レンタルサービスを開始、R5年度から入院患者医療費保証サービスを開始し、身寄りのない方が入院しやすくなるよう努めているが、その分退院調整には時間がかかる。入院日数も意識するが、丁寧な退院調整との両立を心掛けていく。

目標2（参考） 経年グラフ

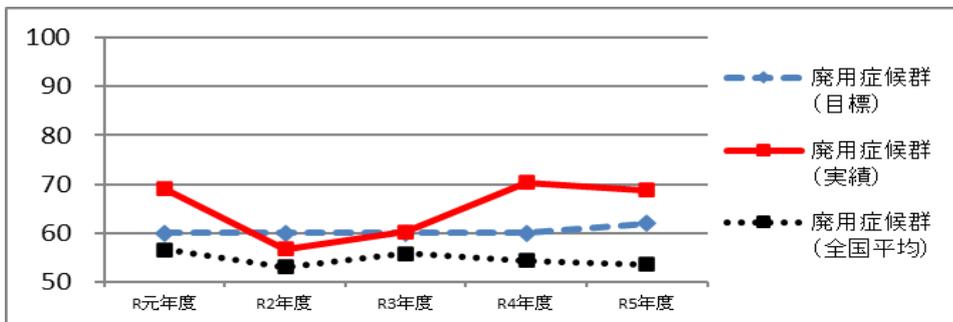
入院から退院までの日数 脳血管系



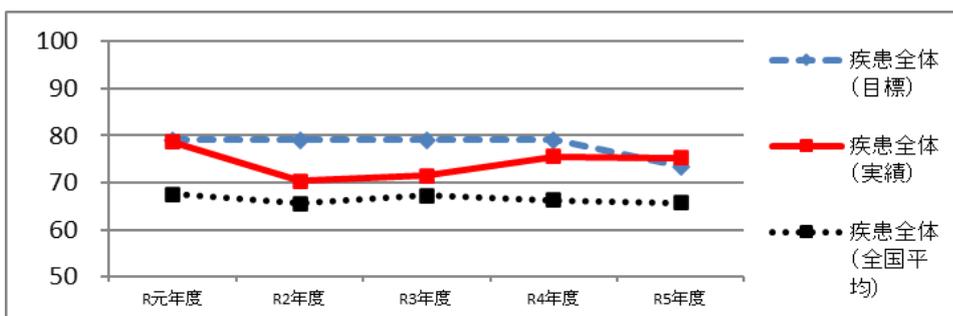
入院から退院までの日数 整形外科系



入院から退院までの日数 廃用症候群



入院から退院までの日数 疾患全体



### 目標3：リハビリテーション効果（FIM）

R5年度目標：	疾患全体 24.5	脳血管系 27.0	整形外科系 23.5	廃用症候群 17.5	その他 -
R5年度実績：	疾患全体 24.5	脳血管系 26.0	整形外科系 21.3	廃用症候群 22.9	その他 -

#### 目標達成に対するR5年度の活動状況について

目標1「在宅復帰率」の達成のために掲げたリハビリテーションサービスを提供することで、ADLの向上を図った。

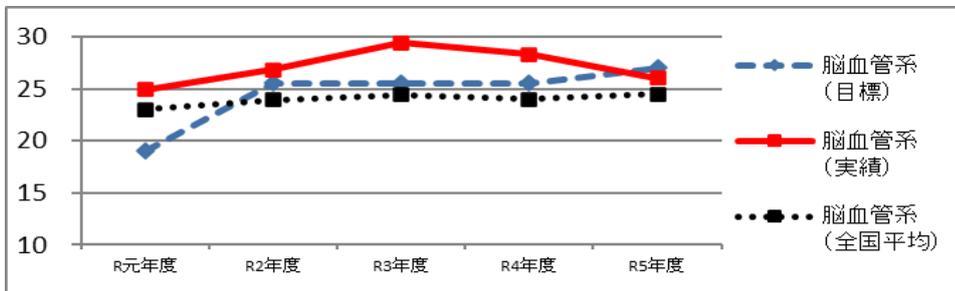
- ① 365日、1日2～3時間の濃厚なりハビリテーションサービスを提供した。
- ② リハビリテーションサービスの提供場所も機能訓練室に加えて病棟内でも行い、より生活に近い場面で実施した。
- ③ 自宅復帰後の日常生活をイメージした下記の具体的ケアを行った。
  - 1) 食事は病棟食堂で可能な限り経口摂取する。
  - 2) 洗面は朝夕洗面所で、口腔ケアは毎食後行う。
  - 3) 排泄は極カトイレで行う。
  - 4) 入浴は特殊浴槽を使わず、通常の浴槽に入る。
  - 5) 朝晩着替え、日中は普段着で過ごす。
  - 6) 個人の体形や姿勢に合った車椅子を用意する。
  - 7) 原則として、抑制は行わない。
  - 8) 日中はベッドから離れて、自主訓練などで活動して頂く。
- ④ リハビリテーションスタッフの早出、遅出を実施し朝、夕のケアの充実を図り日常生活動作の向上を図った。

#### R5年度の実績に基づく今後の改善点について

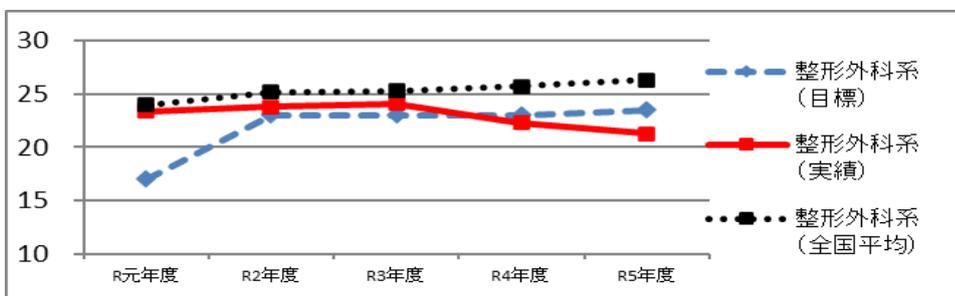
脳血管系・整形外科系では目標を下回ったが、廃用症候群は目標を上回り、疾患全体でも目標24.5に対して実績24.5と目標を達成した。疾患全体のFIM効果はR4年度25.5→R5年度24.5とやや減少した。重症者割合、入院日数、FIM効果は互いに影響しあう数値であるが、R2年度から回復期リハ病棟のFIM実績指数の基準が上がり、短い入院期間で効率よくADLを改善することが求められている。リハビリテーションの必要期間と上限日数、ADLの向上見込み、退院先の決定、患者・家族の理解と満足度、これらをバランス良く達成していくためには、多職種によるカンファレンスでの情報共有と、医師による面談での丁寧な説明が重要である。なおR6年度診療報酬改定で、発症後60日を超えた整形外科系患者へのリハビリテーション提供が1日上限9→6単位へ減少となった。これにより整形外科系患者のFIM効果が下がらないよう、より早期の入院受入れ、自主トレーニング活用などに努めていく。

目標3（参考） 経年グラフ

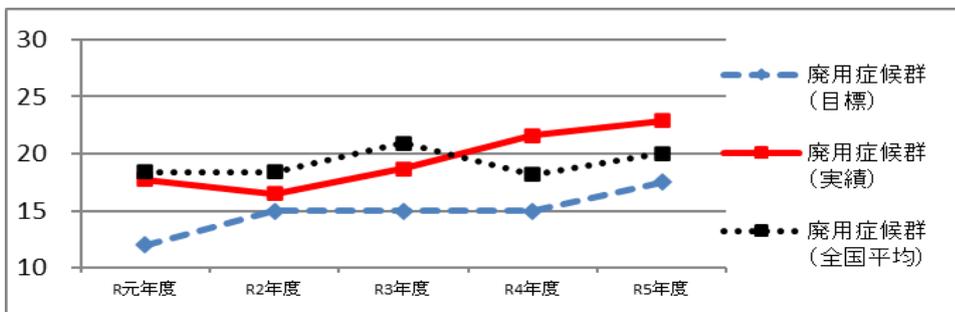
リハビリテーション効果（FIM） 脳血管系



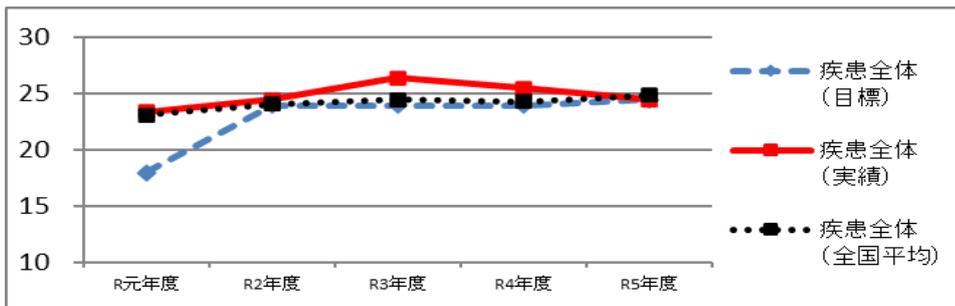
リハビリテーション効果（FIM） 整形外科系



リハビリテーション効果（FIM） 廃用症候群



リハビリテーション効果（FIM） 疾患全体



2) 患者及びその家族の精神的・生活側面に関する事項

目標4：入院患者満足度

R5年度目標：「満足」「やや満足」合計で90%以上、「満足」単独で65%以上

R5年度実績：全10項目中、1項目で目標を達成できなかった

目標達成に対するR5年度の活動状況について

	項目	満足	満足+やや満足
①	リハビリテーション	82%	97%
②	入院までの手続き・期間	72%	91%
③	治療方針の説明	71%	92%
④	退院後の生活説明	72%	94%
⑤	職員の対応	82%	97%
⑥	療養環境	82%	98%
⑦	プライバシーへの配慮	72%	94%
⑧	病院案内・掲示	57%	87%
⑨	食事	68%	91%
⑩	看護・介護	76%	96%

R4年度同様に下記の項目を実施した。

① 医療に関する事項の満足度向上について

目標1「在宅復帰率」で掲げた項目を実施することで、患者が回復を実感できるリハビリテーションサービスを提供した。また、急性期病院への積極的な働きかけを行うことで可能な限りの早期入院を目指した。

② 職員の対応に関する事項の満足度向上について

接遇マニュアルをもとに、新入職員に対しては全員接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。さらに接遇を習慣化するために接遇係を設置し、月間接遇目標の立案、その実行状況の把握、改善指導を行った。

また、職員に対して「人間の尊厳の保持」「主体性・自己決定権の尊重」などの病院の基本理念と、「人権を尊重される権利」「自らの意思で選択・決定する権利」などの患者の権利を掲げたポケットマニュアルを配布し、常に携帯するように指導した。

③ 院内の療養環境に関する事項の満足度向上について

(ア)療養環境については、日常的に院内の清潔感を保つことは当然であるが、週に3日浴槽への入浴を行うなど患者が快適に過ごせる環境づくりを行った。

(イ)プライバシーへの配慮は、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフに教育を行った。また、患者に対しては、個人情報保護についての方

針に関するリーフレットを提供し、病院の方針を周知した。

(ウ)患者に対する案内の提供については、患者が必要としている情報が何であるのかを常に把握するよう努め、柔軟に対応をした。

(エ)食事については、調理士が厨房で調理を行うことで満足度の高い食事を提供するように努めた。なお、嚥下障害のある患者に対しては個人の機能に対応した食形態の工夫や食事にとろみをつけるなど、細かな配慮を行った。

#### ④看護・介護に関する満足度向上について

看護および介護に関わる職員については、市の条例にもとづき診療報酬の基準以上の配置を行った。職員に対する教育研修を実施し、患者が安心して療養できる環境を目指した。

#### ④ 御意見箱の設置

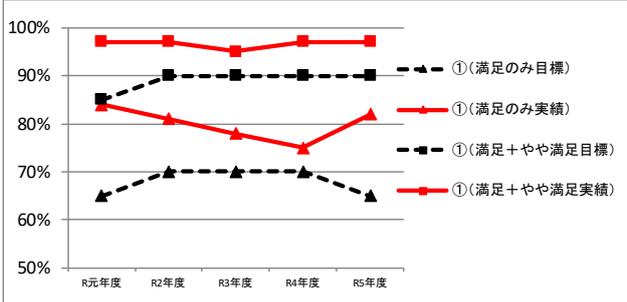
調査時の結果に満足することなく日常的に入院患者、外来患者の御意見を聞くために御意見箱を院内隅々に設置し、御意見をいただき改善できるところは速やかに改善し満足度の向上を図った。また御意見への回答を院内に掲示した。

### R5年度の実績に基づく今後の改善点について

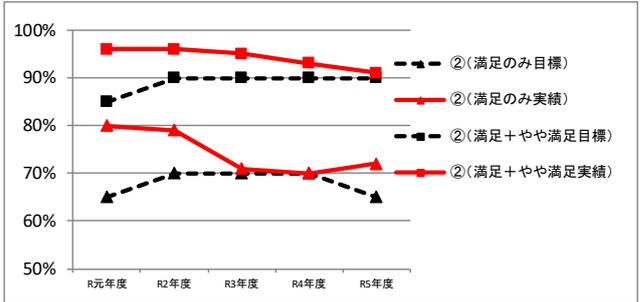
前述のとおり結果であり、⑧「病院案内・掲示」が「満足」「満足+やや満足」両方も目標を達成できなかった。患者・家族向けの案内は病棟掲示板やエレベータ内の掲示、ホームページへの掲載、必要に応じ案内用紙での配布、など実施したが、「満足」は前年度60%から今年度57%へ下がり、「満足+やや満足」は前年度87%→今年度87%と向上しなかった。R6年度は、各病棟の見やすい位置へ掲示板を増設し、また1階総合受付横にも掲示板を新規に設置することで、より多くの方にわかりやすい情報発信ができるよう努めたい。その他の項目は全て目標を達成できたが、特に①「リハビリテーション」の「満足」は82%（前年度比+7%）、④「退院後の生活説明」の「満足」は72%（同+8%）、⑥「療養環境」の「満足」は82%（同+6%）、⑨「食事」の「満足」は68%（同+8%）と前年度と比較し大きく改善した。①④⑥も含め全般的に向上したのは、R5年度から面会制限を緩和し家族が病棟・病室内に入れるようになったことで、実際にリハビリテーションや看護・介護の光景を見ることができ安心につながったことも要因だと考える。また⑥についてはR5年度から全病棟・病室内において無料Wi-Fiサービスを提供開始したことも満足向上につながったと考える。なお開院17年目を迎え、空調設備や給排水設備などの、快適な入院生活に直結する設備の老朽化が顕著であるため、これらを含めた大規模設備更新について船橋市と相談・検討を行っているところである。⑨「食事」については令和5年10月から夕食も選択メニュー再開し、3食とも選択メニューとなったことが満足向上につながった。家族と一緒に楽しめる食事については令和5年度も再開できなかったが、再開のタイミングを検討しながらさらなる満足度向上に努めていきたい。（別添4 入院満足度調査結果）

## 目標4（参考） 経年グラフ（入院）

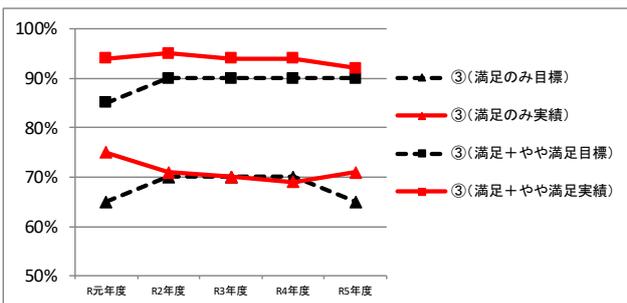
①当院のリハビリテーションについてご満足いただけましたか。



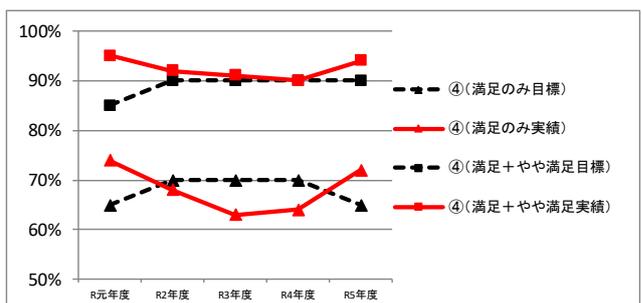
②当院に入院するまでの手続きや期間についてご満足いただけましたか。



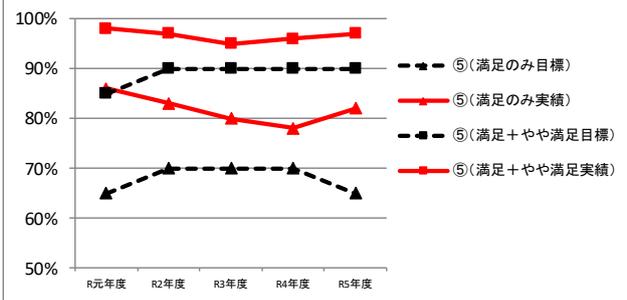
③治療方針などの説明についてご満足いただけましたか。



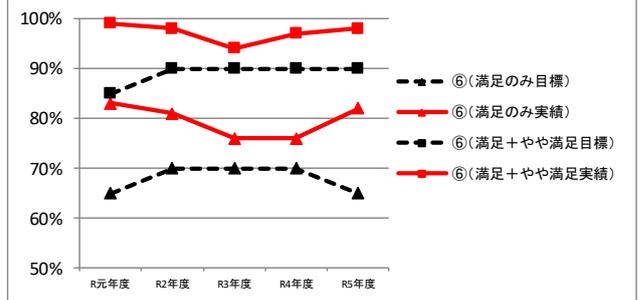
④当院が行った退院後の生活に関する説明やご案内につきご満足頂けましたか。



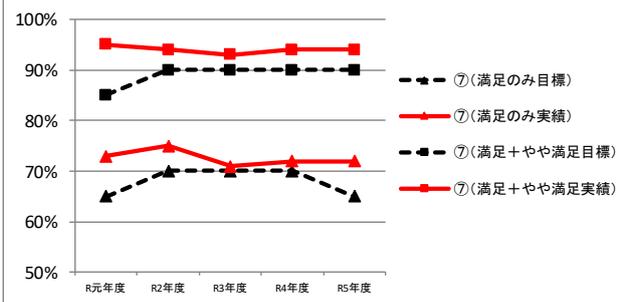
⑤職員の対応についてご満足いただけましたか。



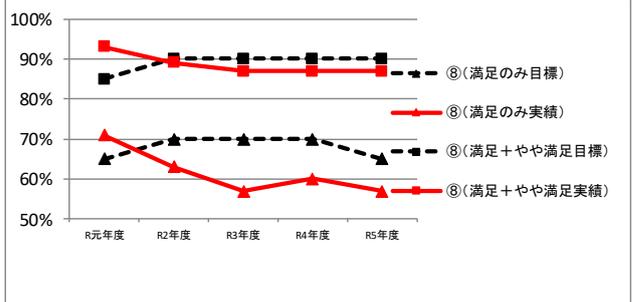
⑥療養環境についてご満足いただけましたか。



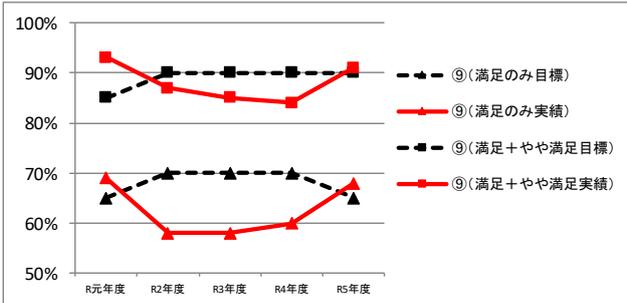
⑦プライバシーへの配慮についてご満足いただけましたか。



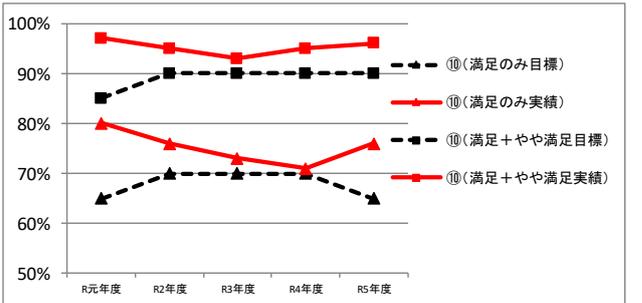
⑧院内の案内および掲示方法や内容についてご満足いただけましたか。



⑨食事についてご満足いただけましたか。



⑩看護や介護についてご満足いただけましたか。



目標5：外来患者満足度

R5年度目標：「満足」「やや満足」合計で90%以上、「満足」単独で65%以上

R5年度実績：全3項目中、2項目で目標を達成できなかった

目標達成に対するR5年度の活動状況について

(1) 外来

	項目	満足	満足+やや満足
①	リハビリテーション	56%	87%
②	職員の対応	77%	96%
③	待ち時間	61%	88%

(2) 通所リハ

	項目	満足	満足+やや満足
①	通所リハビリテーション	62%	90%
②	職員の対応	76%	95%
③	自主トレーニング	52%	85%

リハビリテーションの提供に当たっては、外来リハビリの質の向上で満足度の向上を目指した。職員の対応については、目標4「入院患者満足度」の達成で掲げたとおり、関係の取り組み等により、スタッフの接遇レベル向上を図った。

外来・通所リハビリの新患を待たせることなく、すぐに診察しリハ開始につなげられるよう新患外来枠を設け、申し込みから利用開始までの待ち時間を短縮するよう努めた。

また、医療センターや船橋中央病院等に当院外来リハの空き枠をFAXでこまめに案内し、直接自宅に退院する患者でリハが必要な方を当院外来リハにつなげられるよう工夫した。

R5年度の実績に基づく今後の改善点について

(1) 外来

外来については全3項目中、2項目で目標を達成できなかった。①リハビリテーションについて満足していない内容として、「スケジュール」「リハビリの頻度」が割合としては多かった。医療保険によるリハビリテーション実施の上限日数（標準的算定日数）や上限実施単位数、介護保険のリハビリテーションへの移行など、引き続き、理解を得られるよう丁寧な説明を行う努力をする。なお「満足」は、①56%（前年度比▲7%）、②77%（同▲5%）、③61%（同▲11%）とそれぞれ前年度より低下している。あらためて内容を分析しながら改善に向けて努力していく。（別添5 外来満足度調査結果）

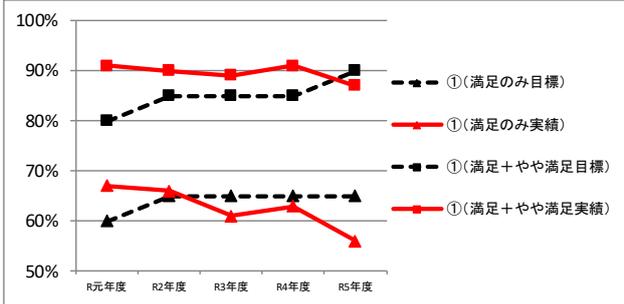
## (2) 通所リハ

通所リハについては、前述の結果となった。③自主トレーニングの「満足」については前年度と同じく52%と低い結果となった。自主トレーニングについて満足していない内容としては、こちらも前年度同様「内容」が割合としては多かった。医療保険の外来リハビリから介護保険の通所リハビリへの移行の中で、個別リハビリから集団リハビリ・自主トレーニングと、徐々に自立支援の関わり方にシフトしていくが、その過程で、自主トレーニングの必要性の説明を継続して行っていくことが重要である。患者が意欲的に取り組めるよう、マンネリにならない自主トレメニュー作成をあらためて心がけていく。

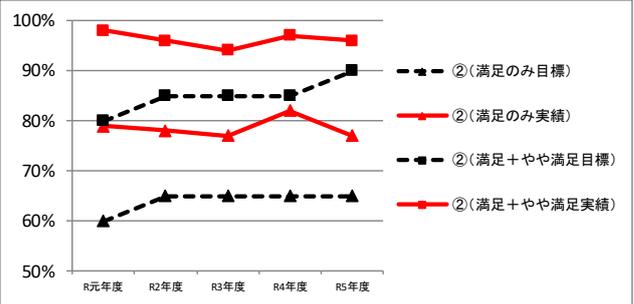
R3年度より外来・通所部門は生活期支援部として法人内他拠点の在宅部門との情報共有・連携を強化している。より一層質の高いリハビリテーションサービスを提供できるよう努力する。（別添6-2 通所満足度調査結果）

## 目標5（参考） 経年グラフ（外来）

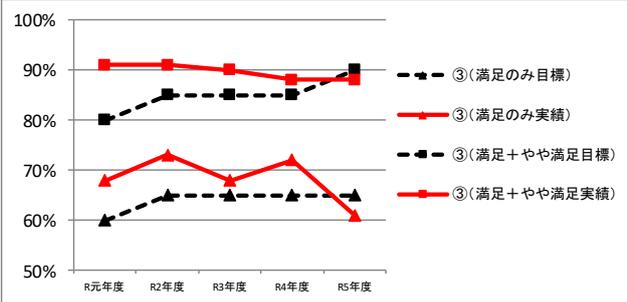
①当院のリハビリテーションについてご満足いただけましたか。



②職員の対応についてご満足いただけましたか。

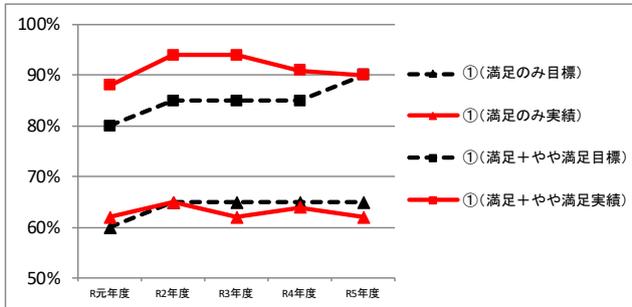


③待ち時間についてご満足いただけましたか。

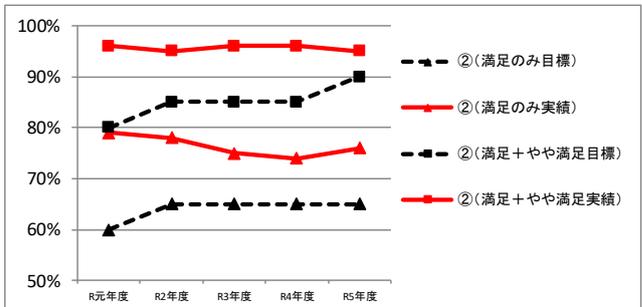


## 経年グラフ（通所）

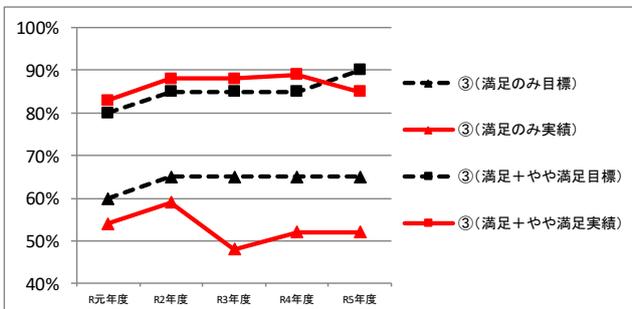
①当院のリハビリテーションについてご満足いただけましたか。



②職員の対応についてご満足いただけましたか。



③当院で行っている自主トレーニングについてご満足いただけましたか。



## 目標6：訪問患者満足度

R5年度目標：「満足」「やや満足」合計で90%以上、「満足」単独で65%以上

R5年度実績：全3項目中2項目で目標を達成した

### 目標達成に対するR4年度の活動状況について

	項目	満足	満足+やや満足
①	訪問リハビリテーション	70%	92%
②	職員の対応	83%	95%
③	時間帯・スケジュール	73%	88%

リハビリテーションの提供に当たっては、訪問リハビリの質の向上で満足度の向上を目指した。職員の対応については、目標4「入院患者満足度」の達成で掲げたとおり、接遇係の取り組み等により、スタッフの接遇レベル向上を図った。

訪問リハビリの月間件数は毎月2千件を超え、多くの利用者に対し訪問リハビリを提供することが出来た。

また、患者の主治医、ケアマネジャーと連携を図り、患者の身体や生活状況・住宅環境などから課題・目標・期間をご家族も含め共に検討し、その人らしい生活が送れるように支援した。

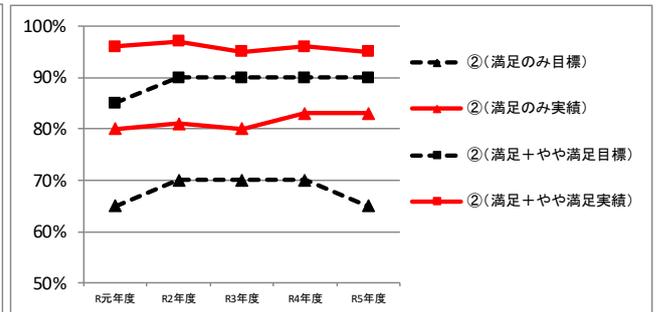
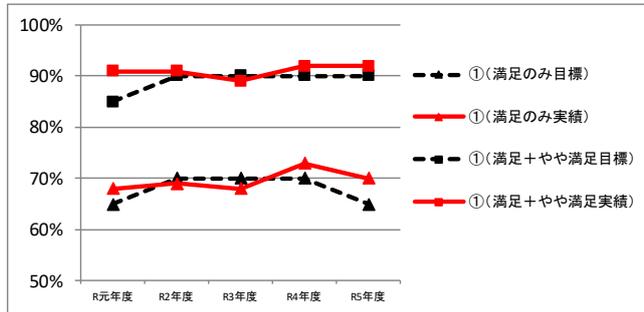
### R5年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリテーションの結果は前述のとおりであり、全ての項目で目標を達成した。

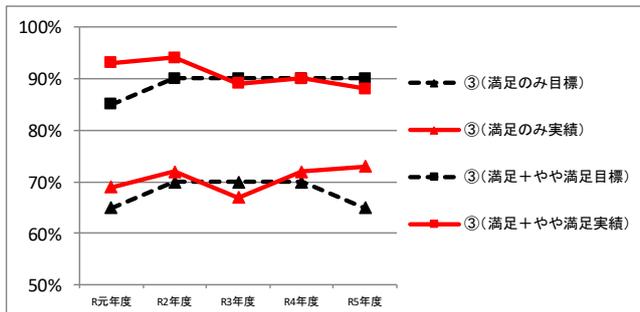
③「時間帯・スケジュール」の「満足」については前々年度67%→前年度72%→今年度73%と少しずつ向上している。空き枠が少なく希望どおりの時間帯でスケジュールが組めないこともある中で、可能な限り調整し、少しでも希望に添えるよう努力している結果だと考えられる。R3年度より訪問部門は生活期支援部として法人内他拠点の在宅部門との情報共有・連携を強化している。より一層質の高いリハビリテーションサービスを提供できるよう努力する。（別添6-1 訪問満足度調査結果）

## 目標6（参考） 経年グラフ（訪問）

①当院のスタッフが提供するリハビリテーションについてご満足頂けましたか。 ②職員の対応についてご満足いただけましたか。



③訪問のスケジュールについてご満足いただけましたか。



## 2 患者の効率化に関する事項

### 目標7：病床稼働率

**R5年度目標：病床稼働率95.0%**

**R5年度実績：病床稼働率100.2%（180床稼働で計算）**

#### 目標達成に対するR5年度の活動状況について

前述のとおり、令和5年度も20床を休床した180床稼働で運営を行った。そのため、病床稼働率についても180床での数字を掲載している。

主な活動状況としては、以下のとおり。

##### (1) 重度患者の積極的な受け入れ

当法人のノウハウを活かし、リハビリテーションの適応がある患者は重度であっても積極的に受け入れた。受け入れ後、高い診療成果により当院の質を証明することで、急性期病院の信頼を獲得できるよう努力した。

##### (2) 市民から信頼される医療サービスの提供

医療サービスの向上、患者満足度の向上等により、市民からの信頼を獲得し、市民に選ばれる病院となることを目指した。

##### (3) 紹介元医療機関との連携強化（前方連携）

高い稼働率を目指すため、紹介元となる急性期病院への訪問を積極的に行い、顔の見える連携作り、情報収集を行った。また急性期病院スタッフを招いての病院見学会を開催し、前方連携を強化した。船橋市立医療センターとの年4回の連携会議は実施した。医療センターからの紹介患者の全入院患者における割合は49.4%（前年度比+2.0%）、人数は409人（前年度比+13人）と増加した。（別添3 紹介元医療機関リスト）

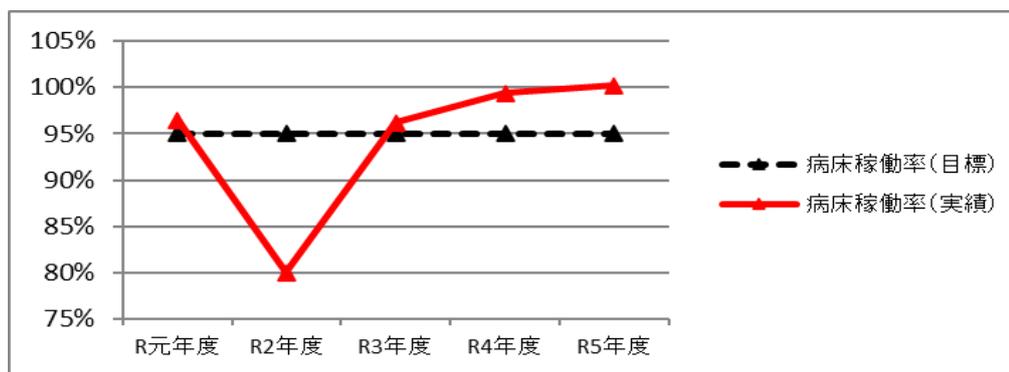
#### R5年度の実績に基づく今後の改善点について

R5年度同様、前方連携活動（紹介元病院訪問、病院見学会開催、症例検討会開催）に力を注ぐ。当院にとっては医療センターが最重要であり、年4回の病院間連携会議、毎月のソーシャルワーカー連携会議を継続する。医療センターから当院へ紹介したが入院へつながらなかったケースはその件数・理由を共有・分析し、改善すべきは改善する。R5年度は医療センター脳神経外科・整形外科の稼働率が年間通して高かったが、医療センターの稼働が低下すると当院の稼働率も連動して低下するため、そのような状況下においても他急性期病院から積極的に紹介を受けることができるよう、複数の急性期病院との連携体制も強化していく。また広報活動としては、バス車内アナウンスや市役所内モニター広告の活用、船橋市発行の介護保険高齢者福祉ガイドへの掲載、病院情報誌の作成・配布、ホームページの充実（動画入院相談やタイムリーなお知らせ更新など情報発信、Googleストリート

ビューなど)に力を注ぐ。またGoogleの「口コミ」全てに真摯に回答を行うことで投稿促進を目指す。これらの取組みにより当院を知って頂くこと、また自身や家族・知人が回復期リハビリテーション病院への入院が必要となった場合に情報を集めた際、是非ここに入院したいと当院への入院を希望して頂くことを目指す。

R5年度は6月に北3病棟、8月に南2病棟で新型コロナウイルスのクラスターがあったが、年間通して高い病床稼働率を維持できるよう努力した。R6年度も同様に、引き続き気をひきしめて運営を行っていく必要がある。

## 目標7 経年グラフ (病床稼働率)



※R2年度までは200床に対して、R3年度からは180床に対しての病床稼働率

### 3 財務内容の改善に関する事項

#### 目標8：経常収支率

R5年目標：102.0%

R5年実績：102.9%

#### 目標達成に対するR5年度の活動状況について

##### (1) 病床稼働率の向上・維持

病床稼働率は上記目標7に記載のとおり100.2%と、コロナ対応を行いながらも高稼働率の維持に努めた。スタッフの中途退職等による欠員や、コロナ陽性等による欠勤も多かった中、入院患者一人一日当たりの平均リハビリ実施単位数は7.81単位（前年比▲0.05単位）と昨年よりも減少したが、提供可能な範囲内で精一杯努力した。回復期入院期限の管理については継続し、無駄のない効率的な運営を目指した。入院収益としては、高い病床稼働率は達成したもののリハビリテーション提供数減少による収益減により、計画比▲89百万円であった。

##### (2) 外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリの安定稼働

医療保険で行なう入院から外来、外来から介護保険の通所・訪問へという流れを意識して途切れの無いリハビリテーションを展開した。通所は計画を上回ったが外来・訪問は計画を下回った。また、給湯設備で発生したレジオネラ菌に対する院内清浄化作業を行うため10月18日の外来・通所の営業を中止したことも収益減少の一因となった。3事業併せた収益は▲10百万円であった。

##### (3) 医業費用の削減

人員配置については、4月を全職種合わせて計画比▲7.5名（医師▲1.0名、看護師▲3.5名、薬剤師▲1.7名など）でスタートした。以降、中途採用や育休明け復職で増員を図るものの、それ以上に予期せぬ中途退職が非常に多く、10月に欠員のピークとなり全職種合計▲31.5名（医師▲1.8名、看護師▲4.7名、介護福祉士▲0.8名、セラピスト合計▲12.2名（PT▲0.2名・OT▲9.5名・ST▲2.5名）、管理栄養士▲1.8名、薬剤師▲1.5名、事務▲2.9名など）とほぼ全ての職種が年間通して欠員の状況で推移した。結果、人件費総額は計画比▲90百万円と大きく下回った。紹介会社活用による紹介手数料については計画比+12百万円であった。その他費用では、物価高騰により材料費などが全体的に計画を上回った。水道光熱費については前年度よりさらなる高騰を見込んだが、結果的には計画比▲43百万円であった。

##### (4) その他医業外収益

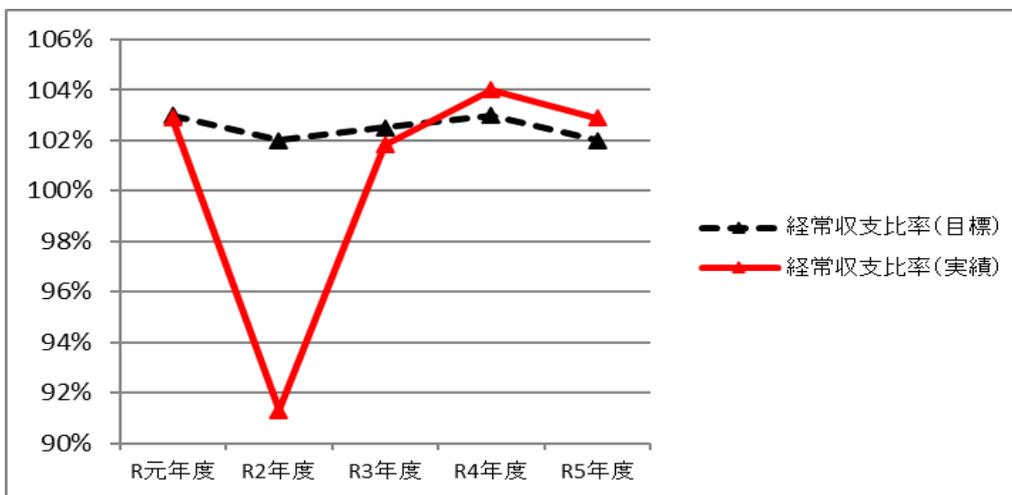
クラスター発生病院への病床確保支援事業補助金で+18百万円、物価高騰対策支援事業補助金として+10百万円等により補助金合計+31百万円を計上した。

結果的に、経常利益は+100百万円であり、経常収支比率は102.9%と目標を達成した。

## R5年度の実績に基づく今後の改善点について

R6年度も引き続き高い病床稼働率の維持、適切な人財の採用と安定した配置、徹底したコスト削減に努め、目標達成を目指したいが、R6年度も人財確保に非常に苦戦している。看護師・介護福祉士・セラピストは欠員状況が続いており、採用活動および中途退職防止に努力している。なお開院17年目となり、多くの設備機器が更新の時期となっている。R5年度はナースコール設備、セキュリティ設備、監視カメラ設備等が船橋市により更新された。空調設備や給排水設備などをはじめさらなる大規模設備更新が今後必要であるが、船橋市と相談・検討を行いながら、故障等により入院患者の療養環境や病院運営に支障を来さないよう、計画的な更新を実行していく必要がある。

### 目標8 経年グラフ（経常収支比率）



#### 4 その他管理に関する重要事項

##### 1】人材の育成その他適切な医療体制の構築に関する事項

###### 目標9：全職種に対する教育プログラム実施

<b>R5年度目標：全職種に対する教育プログラム実施</b>
<b>R5年度実績：別添2の通り研修を行った</b>
<b>目標達成に対するR5年度の活動状況について</b> <p>全職種に対する研修として、輝生会研究発表大会を年5回、WEB開催で行った。学会や外部の研究大会での発表を行う前にまず法人内で発表を行うことで、経験年数の浅いスタッフにとっては登竜門としての存在になっている。また、専門職として自己研鑽していく風土が築かれ、研究発表を聞く側も質問を活発に投げかけ、皆で良い研究を認め合い、切磋琢磨している。新採用研修もWEB開催で実施し、法人の理念や事業内容、リハケアに関する知識などの講義を受講した後に現場配属での勤務開始とした。医療安全・感染対策など必須の勉強会については動画やスライドで配信し、それを受講した後に小テストに回答する形式で実施した。また、管理職対象の研修を年2回（医療機関における患者へのハラスメント研修、労務トラブル予防第2弾）開催した。</p>
<b>R5年度の実績に基づく今後の改善点について</b> <p>R5年度は、外部学会や研修会などは、WEB形式で受講できるものは積極的に参加し、現地参加についても参加可能なものは参加した。また、輝生会研究発表大会はWEB形式で年5回開催を行った。新採用者研修、サブマネジャー研修、在宅研修、部門研修や勉強会なども、R4年度に引き続き、積極的に開催を行った。</p> <p>R6年度もさらにプログラムを充実させ研修開催に取り組む。院内外様々な研修に参加させることで、次世代を担う人材の育成および病院スタッフ全体の底上げに取り組む。</p>

2】継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に関する事項  
目標10：継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に努める

**R5年度目標：継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に努める**

**R5年度実績：継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に努めた**

**目標達成に対するR5年度の活動状況について**

(1) 外来・通所・訪問リハビリテーションサービスの提供

回復期のリハビリ病院退院後もリハビリを必要としている患者に対し、外来・通所・訪問リハビリテーションサービス等の提供を引き続き行なった。また、退院患者全員に対し地域リハビリテーション関係者の紹介・相談・助言を行なうとともに診療情報提供書や退院時サマリーを渡し、退院後の継続的なリハビリテーションの実施を促した。

(別添7 退院後のフォローアップ率)

(2) 回復期リハビリテーションと生活期リハビリテーションの普及啓発

船橋市地域リハビリテーション協議会や船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会などと連携して、入院患者及びその家族並びに市内の地域リハビリテーション関係者に対して、回復期リハや生活期リハの重要性について勉強会・連絡会議等を開催した。

**R5年度の実績に基づく今後の改善点について**

当院のリハビリテーションサービスを継続する場合でも、他事業所でリハビリテーションを継続する場合でも、リハビリが必要な方へ継続の重要性をよく説明することが重要である。リハビリテーションから離れてしまい、体力の低下から新たな疾患（廃用症候群や大腿骨骨折等）を抱えることを予防する必要がある。

その為にも、当院として出来るフォロー体制は重要であり、今後も継続していく。またそれ以外にも、市の事業である足腰の衰えチェック事業、船橋市リハビリ職等派遣支援事業への参加や、自立支援型介護予防ケアマネジメント事業でのリハスタッフ派遣等、行政の行う事業にも積極的に参加し、法人の理念の一つである「地域リハビリテーションの推進」として船橋市の地域リハビリテーション活動に貢献していく。

### 3】情報公開及び地域住民との交流等に関する事項

目標11：地域住民と良好な関係を築くよう努める

**R5年度目標：地域住民と良好な関係を築くよう努める**

**R5年度実績：地域住民と良好な関係を築くよう努めた**

#### 目標達成に対するR5年度の活動状況について

市立リハビリテーション病院を市民に理解していただくためには、「リハビリテーションとは機能訓練のことだけではなく、再びその人らしく生き活きと生活できるようにすることであり、全人間的復権である」ことを理解していただくことが重要である。

このために、病院内で地域住民が参加できる講座や、疾患に対する家族の理解を深める講座を毎年度実施していたが、月1回の患者家族教室はR5年度も開催できなかった。年1回の市民公開講座は前年度は対面開催できずWEB配信で開催したが、今年度は対面開催を行った。

また、地域の方に親しみやすい病院運営を目指すべく、地域住民の方も参加できるロビーでのコンサートを開院以来毎週実施していたが、コロナにより中止して以来、R5年度も開催できなかった。病院情報誌は年2回発行・配布し、院内設備やリハビリ機器、取組みなどの紹介を行った。

#### R5年度の実績に基づく今後の改善点について

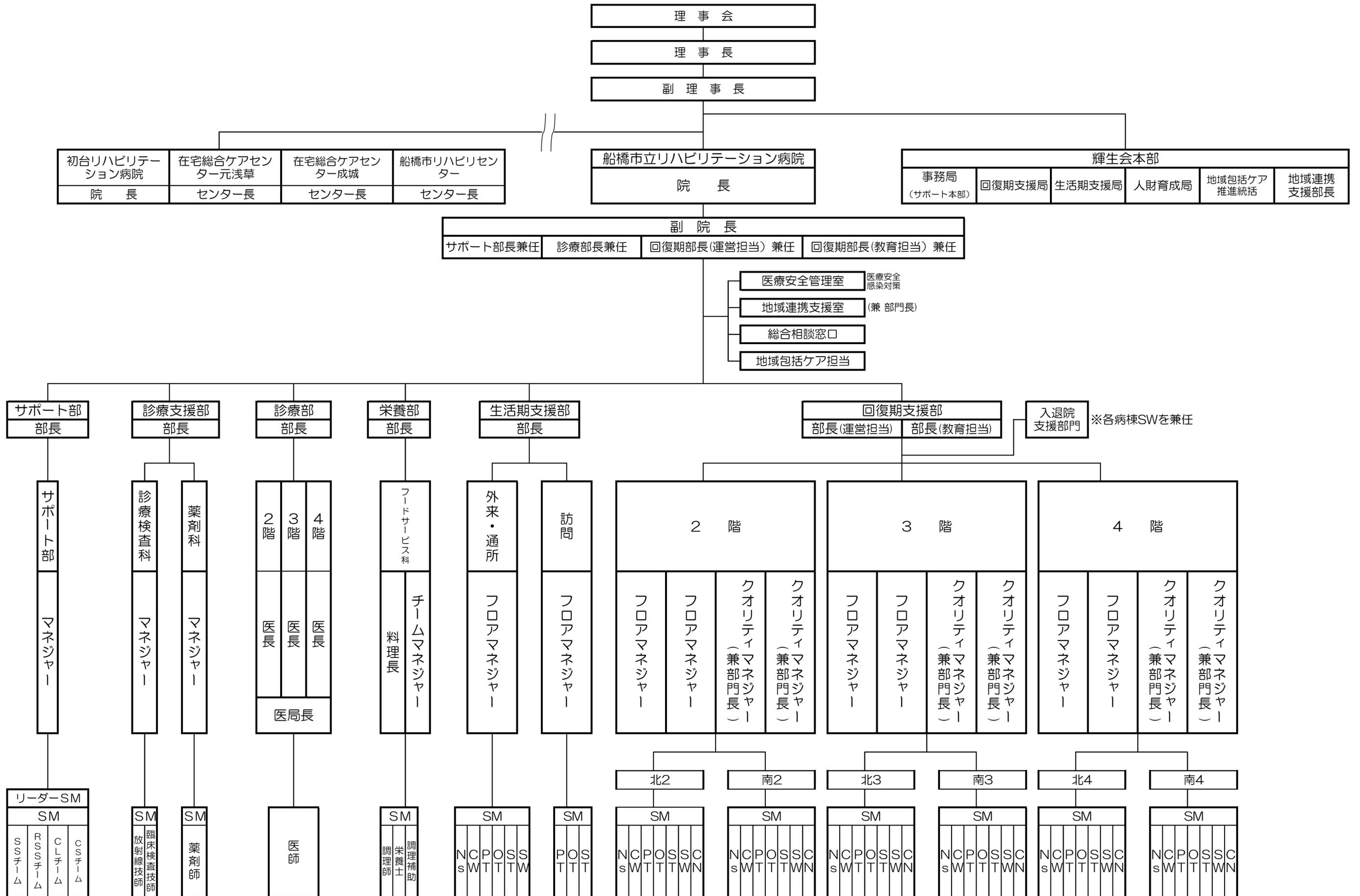
R6年度は以下のとおり開催および実施し、地域との交流に努力する。

患者様・ご家族様・地域住民の為にイベント

- ・病院主催：患者家族教室
- ・病院主催：市民公開講座
- ・病院主催：市内福祉施設との施設間交流会
- ・市内中学校の生徒による職場体験
- ・地域リハ活動支援事業への派遣支援
- ・福祉フェスティバルへの参加

## V 剰余金についての実施状況報告

別添8の通りに、R5年度において地域リハビリテーション充実にあてたことを報告する。（別添8 剰余金について）







別添3

令和5年度回復期退院患者 紹介元医療機関リスト

参考: R4年度

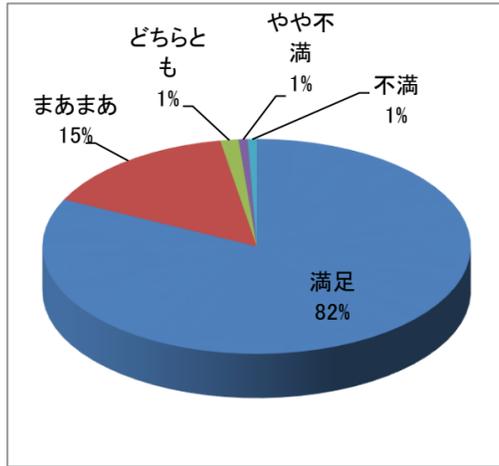
紹介元医療機関	件数	割合	件数	割合
船橋市立医療センター	409	49.4%	396	47.4%
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	47	5.7%	36	4.3%
船橋中央病院	40	4.8%	49	5.9%
東京ベイ・浦安市川医療センター	40	4.8%	24	2.9%
鎌ヶ谷総合病院	34	4.1%	28	3.4%
日本医科大学千葉北総病院	31	3.7%	33	4.0%
東京歯科大学市川総合病院	30	3.6%	46	5.5%
千葉西総合病院	19	2.3%	18	2.2%
千葉県済生会習志野病院	13	1.6%	19	2.3%
板倉病院	9	1.1%	24	2.9%
東京女子医科大学八千代医療センター	8	1.0%	7	0.8%
セコメディック病院	7	0.8%	7	0.8%
千葉徳洲会病院	6	0.7%	8	1.0%
新東京病院	6	0.7%	6	0.7%
東京都立墨東病院	6	0.7%	4	0.5%
千葉県救急医療センター	5	0.6%	4	0.5%
君津中央病院	5	0.6%	2	0.2%
千葉大学医学部附属病院	4	0.5%	2	0.2%
成田赤十字病院	4	0.5%	1	0.1%
東京慈恵会医科大学附属柏病院	4	0.5%	0	0.0%
行徳総合病院	3	0.4%	18	2.2%
習志野第一病院	3	0.4%	3	0.4%
北習志野花輪病院	3	0.4%	2	0.2%
東邦鎌谷病院	3	0.4%	2	0.2%
青山病院	3	0.4%	2	0.2%
東京大学医学部附属病院	3	0.4%	2	0.2%
東京慈恵会医科大学附属病院	3	0.4%	2	0.2%
松戸市立総合医療センター	3	0.4%	1	0.1%
東邦大学医療センター佐倉病院	3	0.4%	1	0.1%
北総白井病院	2	0.2%	4	0.5%
イムス東京葛飾総合病院	2	0.2%	3	0.4%
聖路加国際病院	2	0.2%	2	0.2%
慶應義塾大学病院	2	0.2%	2	0.2%
順天堂大学医学部附属順天堂医院	2	0.2%	2	0.2%
船橋整形外科病院	2	0.2%	1	0.1%
国立国際医療研究センター病院	2	0.2%	1	0.1%
千葉メディカルセンター	2	0.2%	1	0.1%
名戸ヶ谷あびこ病院	2	0.2%	1	0.1%
東千葉メディカルセンター	2	0.2%	0	0.0%
国保旭中央病院	2	0.2%	0	0.0%
森山記念病院	2	0.2%	0	0.0%
東京都立広尾病院	2	0.2%	0	0.0%
高島平中央総合病院	2	0.2%	0	0.0%
柏厚生総合病院	2	0.2%	0	0.0%
その他の医療機関	44	5.3%	71	8.5%
総計	828	100.0%	835	100.0%

令和5年度入院満足度調査結果

実施期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日 (N=293)

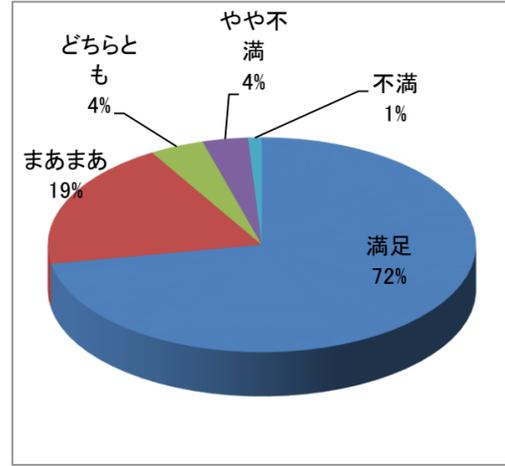
当院のリハビリテーションについてご満足いただけましたか。

回答数=292



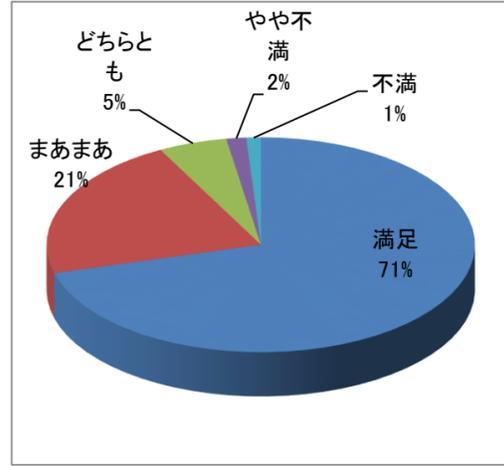
当院に入院するまでの手続きや期間についてご満足いただけましたか。

回答数=291



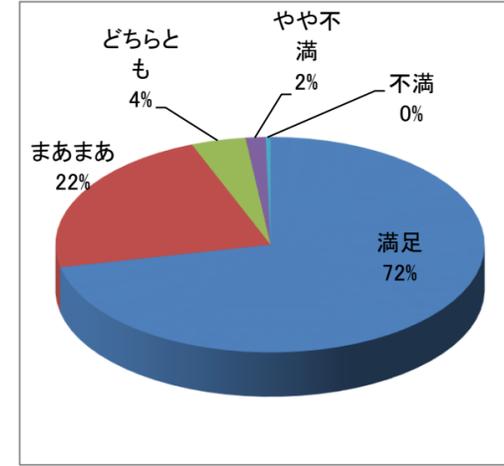
治療方針などの説明についてご満足いただけましたか。

回答数=270



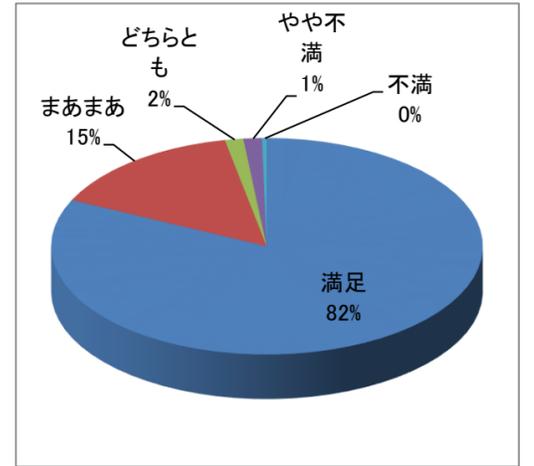
当院が行った退院後の生活に関する説明やご案内についてご満足いただけましたか。

回答数=268



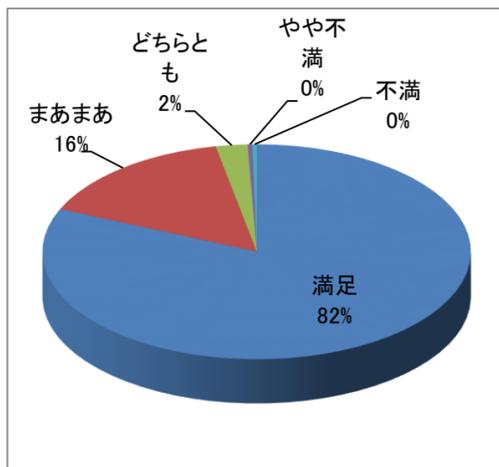
職員の対応についてご満足いただけましたか。

回答数=289



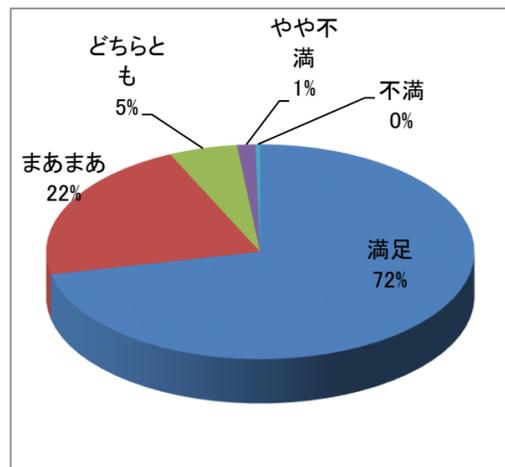
療養環境についてご満足いただけましたか。

回答数=292



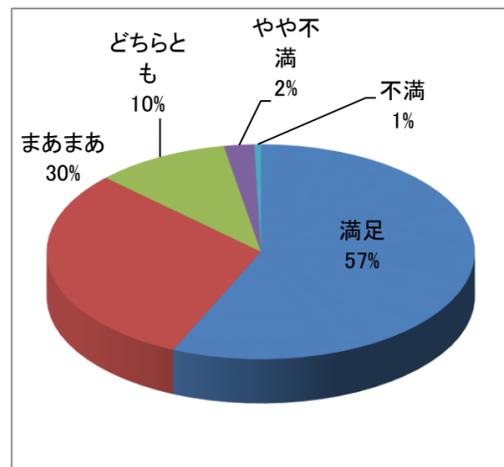
プライバシーへの配慮についてご満足いただけましたか。

回答数=289



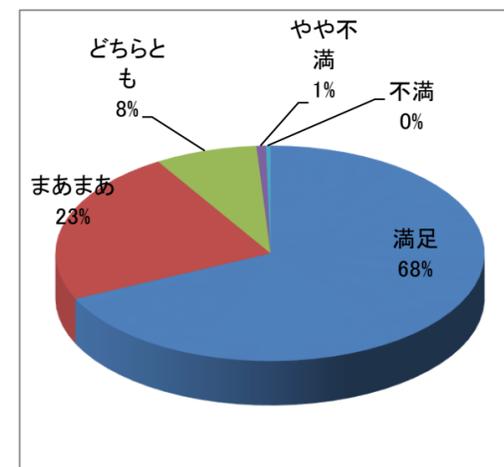
院内のご案内および掲示方法や内容についてご満足いただけましたか。

回答数=266



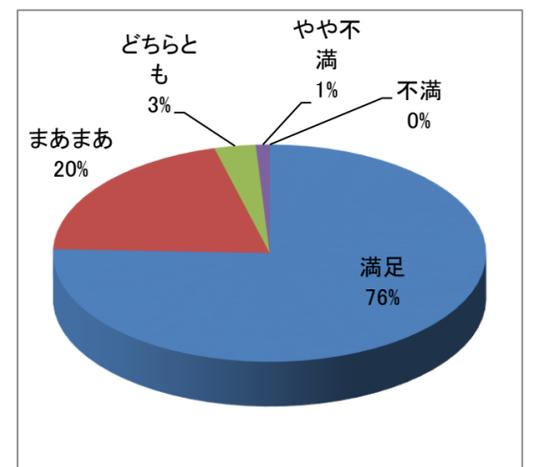
食事についてご満足いただけましたか。

回答数=285



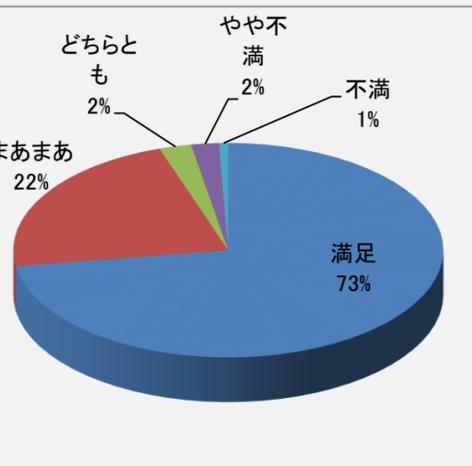
看護や介護についてご満足いただけましたか。

回答数=291



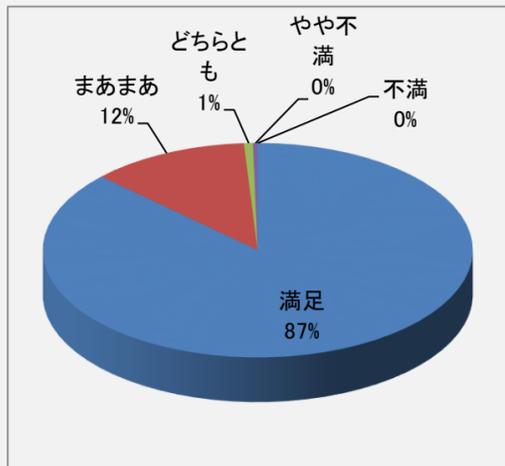
入院生活の時間割について

回答数=289



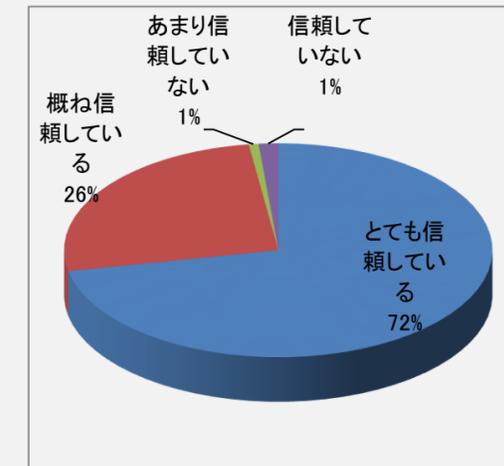
清潔さについて

回答数=293



当院を信頼していますか。

回答数=270

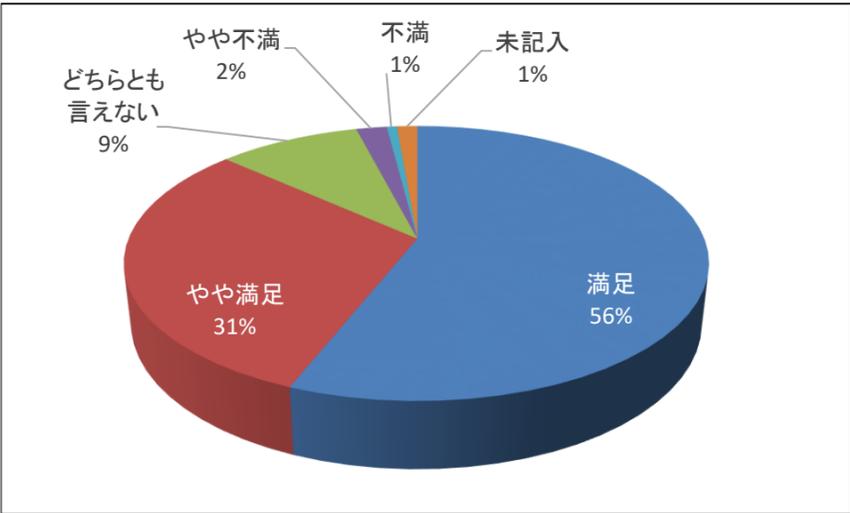


令和5年度外来満足度調査結果

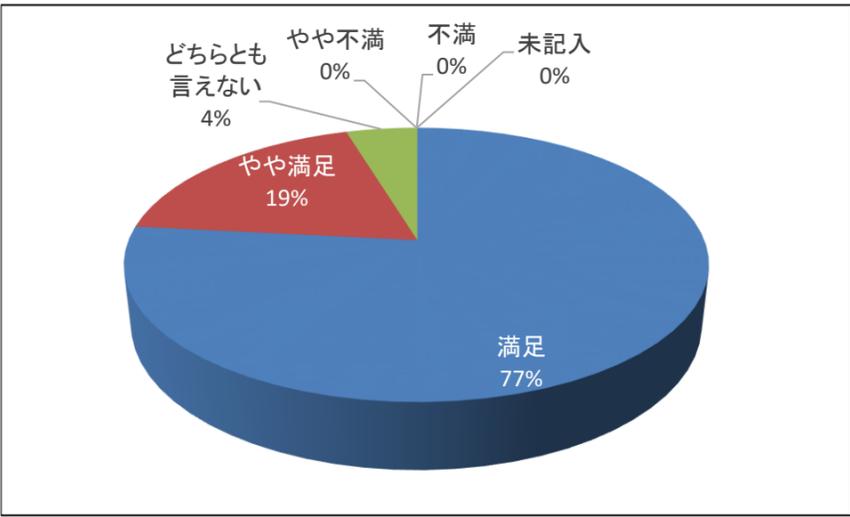
実施期間 令和6年2月13日～令和6年2月27日 (N=150)

別添5

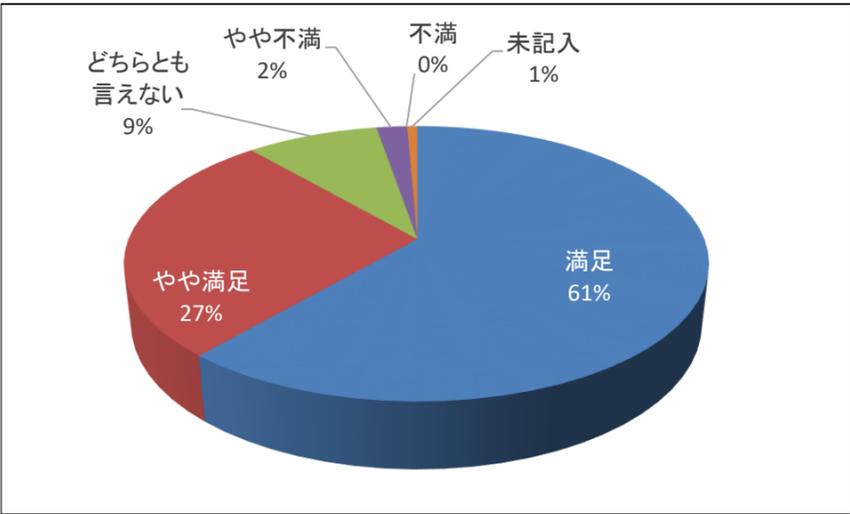
当院のリハビリテーションについてご満足いただけましたか。  
回答数=150



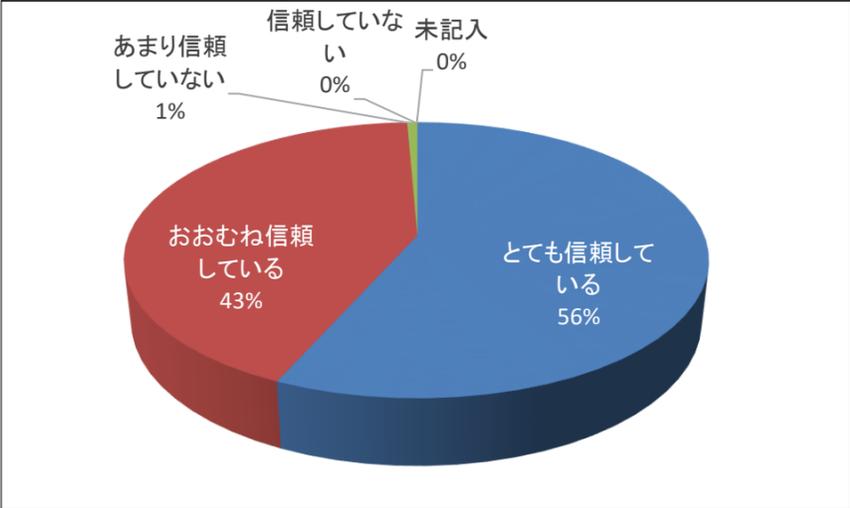
職員の対応についてご満足いただけましたか。  
回答数=150



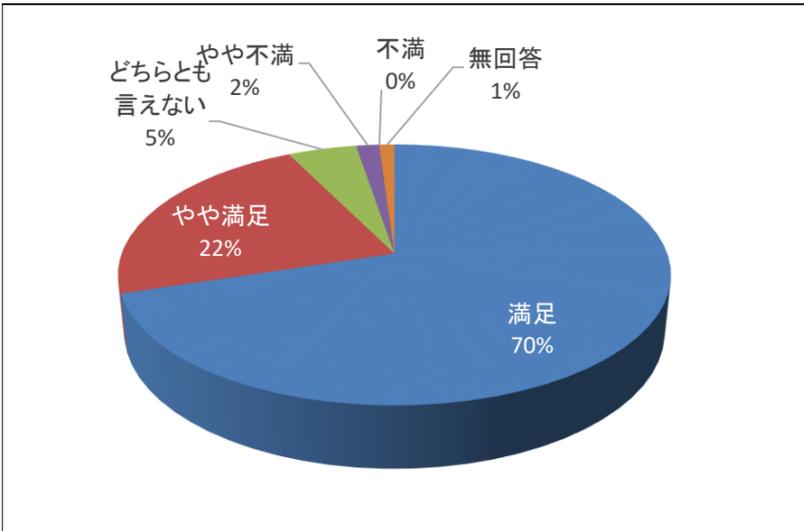
待ち時間についてご満足いただけましたか。  
回答数=150



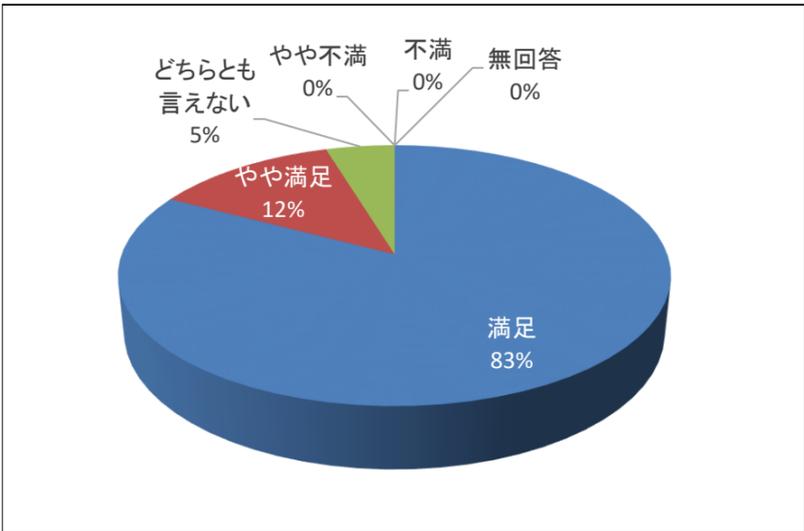
全体としてこの病院を信頼しているか  
回答数=150



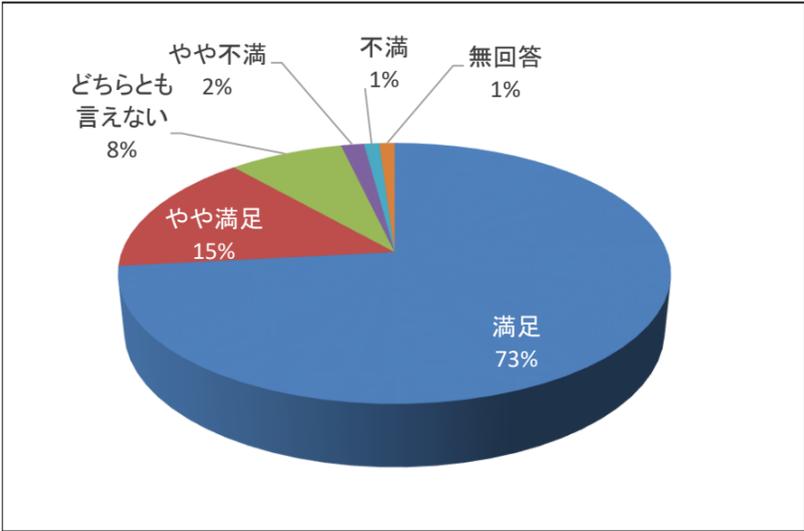
当院のスタッフが提供するリハビリテーションについてご満足いただけましたか。  
回答数=191



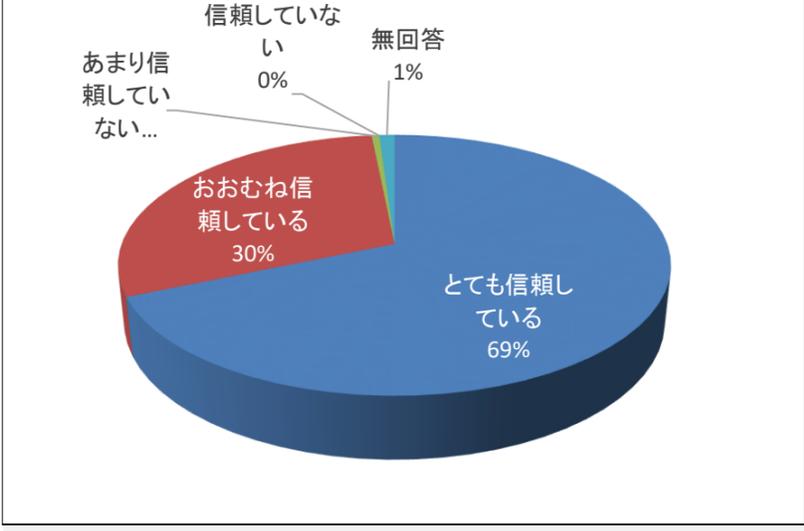
職員の対応についてご満足いただけましたか。  
回答数=191



訪問のスケジュールについてご満足いただけましたか。  
回答数=191



全体としてこの病院を信頼しているか  
回答数=191

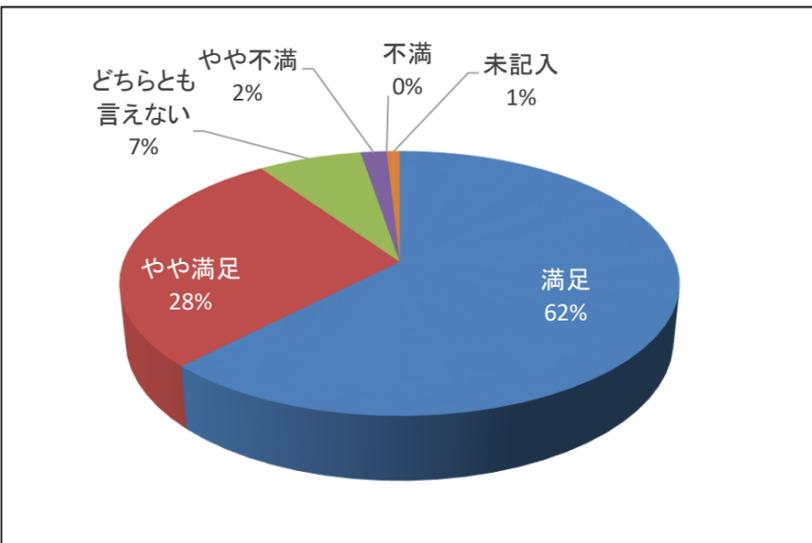


令和5年度通所満足度調査結果

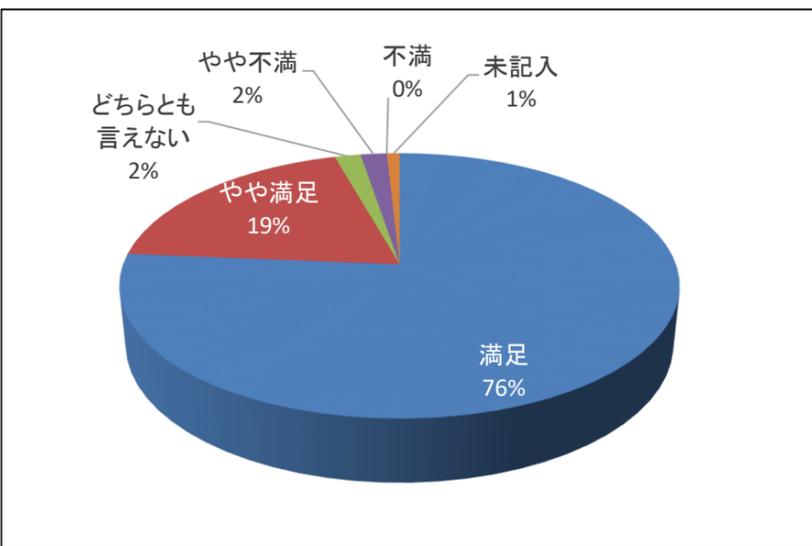
実施期間 令和6年2月13日～令和6年2月27日 (N=114)

別添6-2

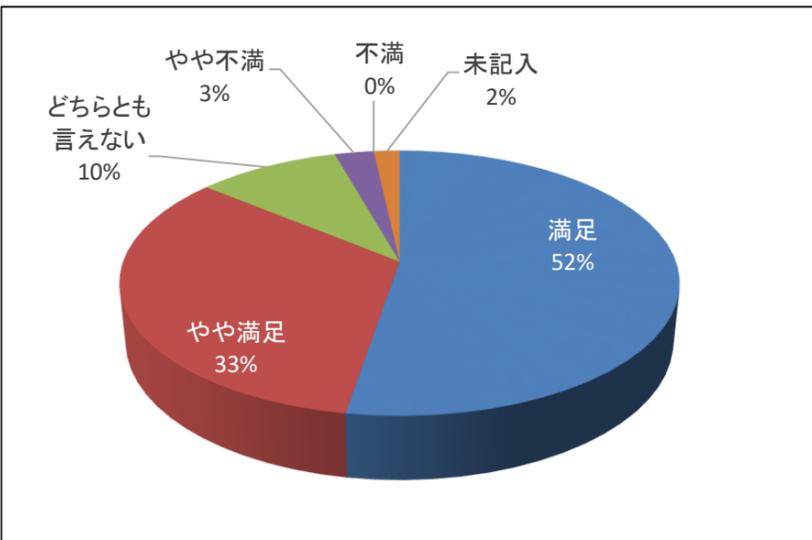
当院のリハビリテーションについてご満足いただけましたか。  
回答数=114



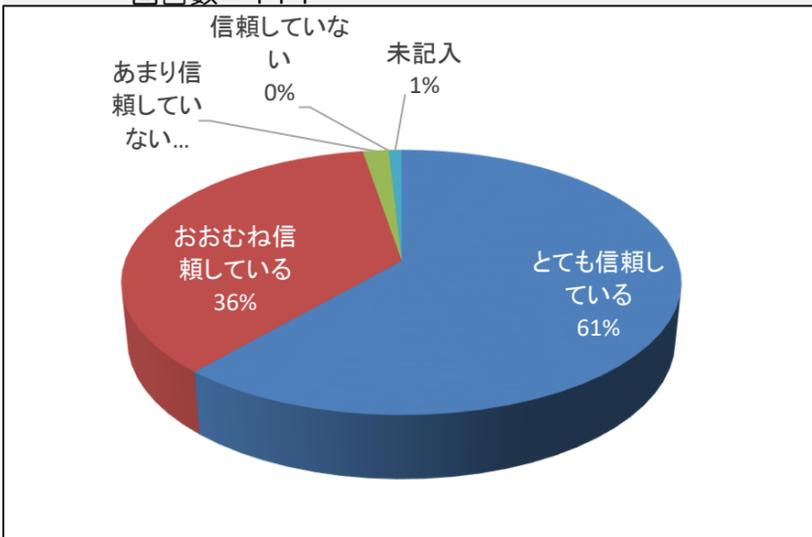
職員の対応についてご満足いただけましたか。  
回答数=114



当院で行っている自主トレーニングについてご満足いただけましたか。  
回答数=114



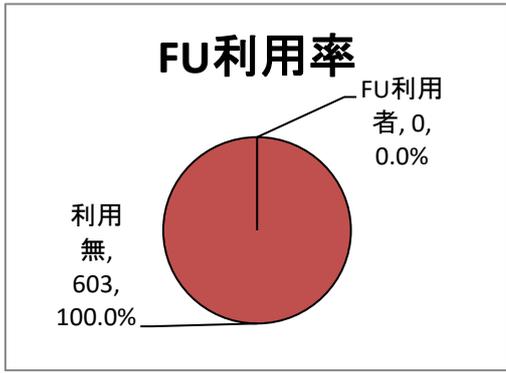
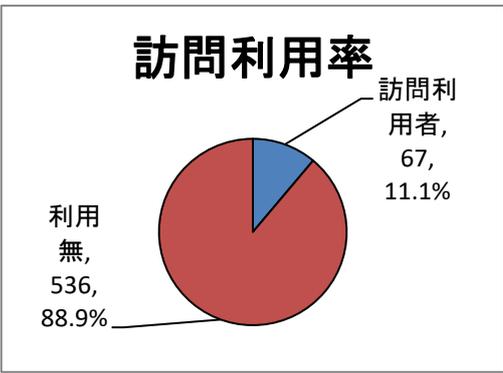
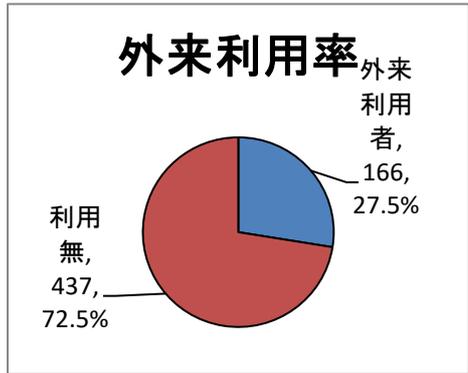
全体としてこの病院を信頼しているか  
回答数=114



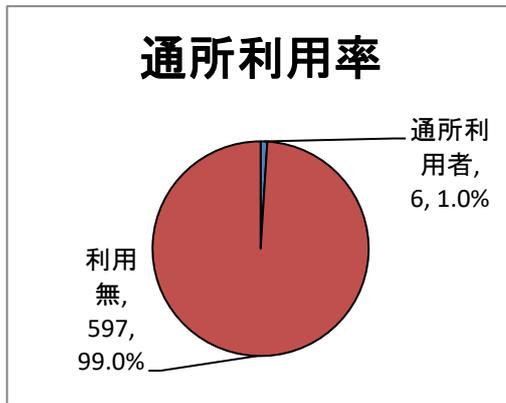
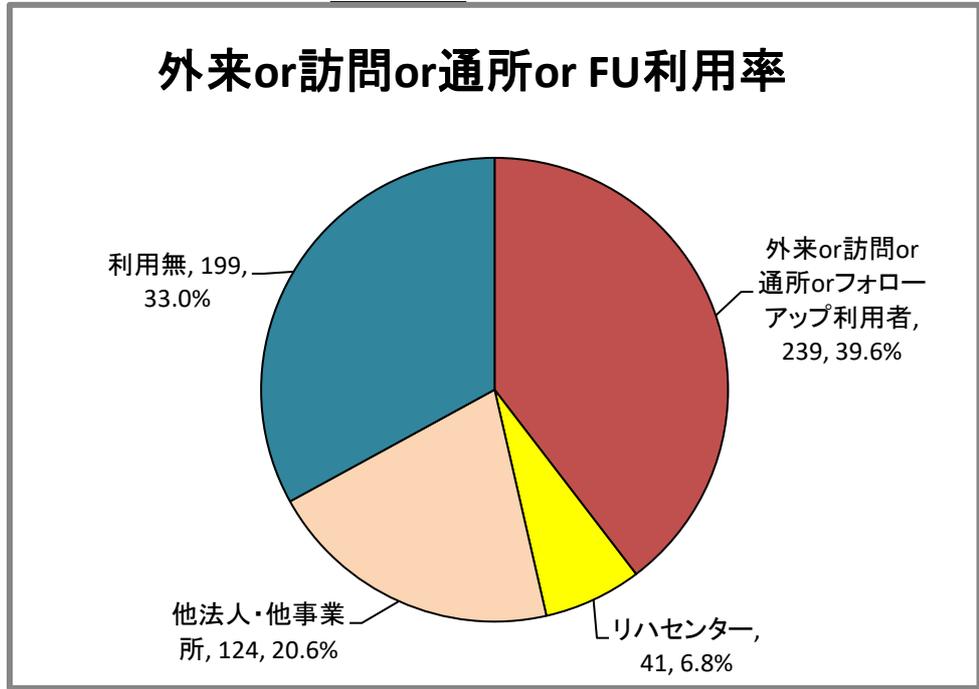
# 退院後のフォローアップ率

別添7

R5年度 退院患者(回復期対象外患者2名を除く828名のうち、自宅退院した患者603名)



※フォローアップはR6年度より再開予定



参考R4年度  
外来or訪問or通所orFU 利用率 36.3%

## 剰余金についての実施状況報告

基本協定書第42条において定められている「毎事業年度の収支において剰余金（税引後の当期純利益をいう。）が生じた場合は、剰余金の額に100分の10を乗じた額以上の額を次事業年度において地域リハビリテーションの充実のために充てなければならない」との項目に関する令和5年度の報告を致します。

令和4年度 当期純利益(剰余金)・・・138,033,996円

令和5年度 地域リハ充実費用・・・13,803,400円以上

### ■令和5年度における地域リハ充実費の活用について

#### ① 市内回復期病院間での連携

予定額 46.5万円

#### ■実施結果■

船橋市回復期リハ病棟連絡会 準備会議を年1回、WEB勉強会を年1回行なった。

・準備会議人件費・・・2,500円×2時間×2人×1回⇒1.0万円

・勉強会参加人件費・・・2,500円×1.5時間×44人×1回⇒16.5万円

・参加者取りまとめ・議事録・開催案内・資料作成人件費・・・

2,500円×年20時間×3名⇒15.0万円

船橋市回復期リハ病棟連絡会の人件費として、**32.5万円を要した。**・・・・・・・・・・①

#### 【活動内容】

構成病院 ・千葉徳洲会病院・船橋二和病院・セコメディック病院・船橋総合病院・薬園台リハビリテーション病院・東船橋病院・船橋市立リハビリテーション病院

体制 代表：千葉徳洲会病院 池田喜久子医師 事務局：船橋市立リハビリテーション病院

11月2日、WEB勉強会を開催。「回復期リハビリテーション病棟の役割について知る」をテーマに、回復期リハビリテーション病棟協会が掲げている『看護・介護10か条』『セラピスト10か条』を参考にしながら、回復期リハビリテーション病棟の役割についてミニレクチャーを行った後、グループワークを実施。病院同士の交流を行った。全77名（当院以外6病院から33名、当院から44名）が参加した。また、病院勉強会の開催案内や資料作成等を行い、事務局機能として活動し、その為の人件費も併せると上記①の金額となった。

## ② 地域急性期病院への訪問

予定額 41.0 万円

## ■実施結果■

地域急性期病院の連携室・ソーシャルワーカーを訪問し、このような疾患・状態の方も回復期リハ病院を利用でき、このように改善できるということや、急性期病院から自宅に退院した後も医療保険の外来リハ、介護保険の通所リハ・訪問リハを利用することができることなどを説明し、地域在住の患者でリハビリテーションが必要な方に適切なリハビリテーションサービスが漏れなく提供されることで地域リハビリテーションの充実を図った。また以前当院に転院した患者がいれば、当院転院後の ADL 改善状況や転帰について説明し、回復期リハビリテーションの効果を実感して頂き対象患者の適切な診療継続に結び付けた。8 病院に対して年 2～3 回ずつ合計 18 回、延べ 33 人の管理職が訪問を実施した。

- ・管理職人件費・・・3,000 円×3 時間×33 人⇒29.7 万円
- ・退院患者の ADL 改善等資料作成人件費・・・2,500 円×1 時間×18 回⇒4.5 万円

地域急性期病院への訪問費用として、**34.2 万円を要した。**・・・・・・・・・・・・②

## ③ 病院見学会の実施

予定額 145.2 万円

## ■実施結果■

回復期リハビリ病棟をこれから新設しようとする病院、新設したばかりの病院、既設だが当院の運営を参考にしたい病院からの見学希望に対応し、当院の運営状況・管理方法・リハビリ提供体制を説明した。合計 3 回実施した。

(11 月 16 日 武蔵嵐山病院 7 名、3 月 4 日 名古屋総合リハセンター附属病院 4 名、  
3 月 12 日 八千代リハビリテーション病院 5 名)

- ・管理職人件費・・・3,000 円×5 時間×10 名×3 回⇒45 万円
- ・資料作成人件費・・・3,000 円×10 時間⇒3 万円
- ・病院食および準備にかかる費用・・・1,000 円×参加者 7 名×1 回⇒0.7 万円

地域急性期病院への見学会を開催し、急性期病院の退院支援・地域連携担当の看護師・ソーシャルワーカー担当者ならびに、病棟勤務の看護師に対しても、今後回復期病院へ患者を紹介する際に具体的なイメージを持って頂くために実際に当院を見学して頂いた。合計 3 回開催した。

(7 月 28 日 日医大千葉北総病院 3 名、市川総合病院 3 名、八千代医療センター 2 名 計 8 名  
10 月 16 日 日医大千葉北総病院 3 名、市川総合病院 2 名、船橋中央病院 2 名、

千葉西総合病院 2 名、板倉病院 1 名 計 10 名  
 12 月 5 日 日医大千葉北総病院 3 名、東京ベイ浦安市川医療センター 2 名、  
 順天堂浦安病院 2 名、船橋中央病院 2 名 計 9 名

- ・管理職人件費・・・3,000 円×6 時間×10 名×3 回⇒54 万円
- ・資料作成人件費・・・3,000 円×10 時間⇒3 万円
- ・病院食および準備にかかる費用・・・1,000 円×参加者延べ 27 名⇒2.7 万円

病院見学会の実施費用として、**108.4 万円を要した。**・・・・・・・・・・・・③

#### ④ 退院前の家庭訪問

予定額 237.6 万円

##### ■実施結果■

多くの入院患者に対して家庭訪問を実施し、必要なケースはセラピスト・看護師等多職種で、ケアマネジャーや住宅改修業者と一緒に自宅を訪問することで、在宅復帰後の生活環境の改善や、生活期のリハビリのご案内も併せて行うことで地域リハの充実を図った。令和 5 年度は年間 297 件実施した。

- ・家庭訪問 1 回あたりの人件費・・・2,000 円×2 人×2 時間×297 件⇒約 237.6 万円

退院前の家庭訪問費用として、**237.6 万円を要した。**・・・・・・・・・・・・④

#### ⑤ 地域包括ケア推進会議（地域連携推進委員会から名称変更）の活動

予定額 80.5 万円

##### ■実施結果■

地域包括ケア推進会議の活動を通し、市内介護施設や介護事業所の職員など地域に対しリハビリを紹介した。

- ・地域包括ケア推進会議 12 回×0.5 時間×7 名×3,000 円(管理職のため)⇒12.6 万円
- ・介護職勉強会 (9 月 7 日「移乗 (身体の使い方によって変化する介助量の違いを体感しよう)」  
 2 月 1 日「移乗 (一人介助)」31 名参加)  
 参加人件費 (スタッフ時間外)・・・2,500 円×1.5 時間×10 名×2 回⇒7.5 万円
- ・施設間交流会 (9 月 22 日 19 名参加、1 月 26 日 17 名参加)  
 参加人件費 (スタッフ時間外)・・・2,500 円×1.5 時間×20 名×2 回⇒15 万円

- ・勉強会資料作成人件費・・・2,500円×10時間⇒2.5万円
- ・情報誌作成用資料準備人件費・・・3,000円×30時間×2回⇒18万円
- ・情報誌作成の業者への委託費用・・・13万円×2回⇒26万円
- ・ホームページ掲載業者への委託費用・・・0.5万円×2回⇒1万円

地域包括ケア推進会議の活動費用として、**82.6万円を要した**・・・・・・・・・・・・⑤

## ⑥ 市民公開講座

予定額 22万円

### ■実施結果■

市民公開講座を12月5日「身体づくりと認知症予防について」をテーマに当院大会議室で開催した。

- ・ミーティング人件費・・・2,500円×10時間×7人⇒17.5万円
- ・当日人件費・・・2,500円×1時間×5人⇒1.3万円
- ・当日資料作成に関する時間外費用・・・2,500円×10時間⇒2.5万円

市民公開講座の開催費用として、**21.3万円を要した**・・・・・・・・・・・・⑥

## ⑦ 先端リハビリ機器のモデル導入・紹介

予定額 445.6万円

### ■実施結果■

地域において回復期リハビリテーション病棟を牽引する存在であり、地域リハ充実の旗手となるよう、市内他病院では導入されていない（千葉県内では当院を含めて4病院のみが導入している）先端リハビリ機器（歩行アシストロボット）を積極的に活用し、病院見学会開催時に効果を説明したり情報誌で紹介することで、先端リハビリ機器の重要性を説明した。

- ・歩行アシストロボット（トヨタ）レンタル・・・360万円/年

市内介護施設や介護事業者の職員に対して実施する介護職勉強会で、腰痛予防対策の一つとして、腰への負担が多い場面において活用できる福祉用具として紹介した。

- ・移乗サポートロボット Hug 購入費用・・・85.6万円

先端リハ機器使用・紹介費用として、**445.6万円を要した**・・・・・・・・・・・・⑦

## ⑧ 外部会議への参加

予定額 24.6 万円

## ■実施結果■

## ○千葉県共用地域利用連携パス（脳卒中）会議

千葉県では「千葉県保健医療計画」に基づき、がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病の4疾病について「循環型地域医療連携システム」を構築し、このシステムによる医療機関の役割分担と連携を円滑に進めるためのツールとして、「千葉県共用地域医療連携パス」を千葉県医師会、千葉県内のかかりつけ医や急性期病院、回復期病院等の関係者で構成する検討会を設置、共用パスの見直しを行っている。当院もこの会議に参加することで地域リハの充実をはかった。

・管理職時間外 3,000 円/人×5 人×1 時間/回×年 6 回=9.0 万円

## ○TN（東葛南部）パス会議

大腿骨頸部骨折については、船橋市立医療センターなどの急性期病院と地域の回復期リハビリテーション病院がネットワーク「TN パスネット」を立ち上げ、必要な医療を連携して行っている。お互いに専用の情報提供書(パスシート)を共同使用することで切れ目のない継続した地域医療を実現するためのこの会議に参加することで地域リハの充実をはかった。

・管理職時間外 3,000 円/人×2 人×1 時間/回×年 3 回=1.8 万円

## ○ひまわり地域リハ推進委員会

船橋市在宅医療ネットワークの委員会のひとつである、地域リハ推進委員会において、地域リハビリテーション拠点事業への協力や、リハビリ関連団体などの活動の取りまとめ、市内外の情勢を踏まえ、リハビリテーションに関する懸案事項を協議し、対策を検討した。

・管理職時間外 3,000 円/人×3 人×2 時間/回×年 6 回=10.8 万円

外部会議への参加費用として、**21.6 万円を要した**・・・・・・・・・・・・・・・・⑧

## ⑨ 地域会議への参加活動

予定額 99.0 万円

## ■実施結果■

地域や患者の為に行われる、サービス担当者会議、リハビリテーション会議に、当院のスタッフ

が年間で1,518件参加して、リハビリに関する助言を行なった。

- ・地域会議への参加活動・・・2,000円/人×1時間×1,518件=303.6万円

地域会議への参加費用として、**303.6万円を要した**・・・・・・・・・・・・・・・・⑨

#### ⑩ 院外遊歩道の整備等

予定額 236.4万円

##### ■実施結果■

地域に開かれた病院を目指し、リハビリテーション病院を多くの市民に知っていただくことができるよう院外遊歩道を一般開放し、ウォーキングコースとして利用いただいた。

- ・地域住民がいつも気持ちよく安全に散歩できる状態を維持するための植栽年間管理費用  
・・・・・・・・ 194.1万円

障害者雇用スタッフによる種植え・花の水やり・種の収穫・袋詰め作業（年間800袋）

- ・1,200円×2時間/日×月16日×12か月=46.1万円

また、収穫した種を図書館等へも配布した。

- ・(2,000円+1,200円)×1時間×10か所配布=3.2万円

院外遊歩道の整備等費用として、**243.4万円を要した**・・・・・・・・・・・・・・・・⑩

#### ⑪ 医療機関との連携

予定額 21.3万円

##### ■実施結果■

回復期リハビリテーションを提供している当院は、患者さまの生活の再構築を支援するにあたり、地域の病院との医療連携が不可欠である。船橋市立医療センターとは、3ヵ月1回、連携会議を設け、患者さまの円滑な受け入れについて話し合いを重ねているほか、合同症例検討会を通じて、お互いの役割の理解を深めることで、地域リハの充実を図った。

医療センターとの連携会議

- ・管理職 2,500円/人×10人×1時間/回×年4回=10.0万円
- ・症例検討会 時間外 2,500円/人×44人×1時間/回=11.0万円

医療機関との連携費用として、**21.0万円を要した**・・・・・・・・・・・・・・・・⑪

## ⑫ コンパスの会の運営サポート

予定額 9.0 万円

### ■実施結果■

当院及び当法人関連施設にて入院・通院・通所・訪問による治療を経験又は継続中の患者及び家族によって相互扶助・情報交換・親睦及び社会復帰の一助となる活動を行うコンパスの会の運営のサポートを行い、障害のある方々が退院後も引き続きいきいきとした生活ができるように支援した。

・管理職 2,500 円/人×3 人×1 時間/回×年 12 回=9.0 万円

コンパスの会の運営サポート費用として、**9万円を要した**・・・・・・・・・・・・・・・・⑫

実施結果	計画金額	実績金額
① 市内回復期病院間での連携	46.5 万円	32.5 万円
② 地域急性期病院への訪問	41.0 万円	34.2 万円
③ 病院見学会の実施	145.2 万円	108.4 万円
④ 退院前の家庭訪問	237.6 万円	237.6 万円
⑤ 地域連携委員会の活動	80.5 万円	82.6 万円
⑥ 市民公開講座	22.0 万円	21.3 万円
⑦ 先端リハビリ機器の使用・紹介	445.6 万円	445.6 万円
⑧ 外部会議への参加	24.6 万円	21.6 万円
⑨ 地域会議への参加活動	99.0 万円	303.6 万円
⑩ 院外遊歩道の整備	236.4 万円	243.4 万円
⑪ 医療機関との連携	21.3 万円	21.0 万円
⑫ コンパスの会の運営サポート	9.0 万円	9.0 万円
合計	1,408.7 万円	1,560.8 万円

上記①から⑫までの金額をまとめると 1,560,8 万円となり、この金額をもって地域リハ充実費といたしましたのでご報告致します。

以上